{ 魔法少女まどか☆マギカ }

# 10TH ANNIVERSARY BOOK VOL.1




SINCE
2011·01·07

"PUELLA MAGI MADOKA MAGICA"
10TH ANNIVERSARY BOOK

{ 魔法少女まどか☆マギカ }

# 10TH ANNIVERSARY BOOK VOL.1



オリジナルTVアニメーションとして、監督・新房昭之、脚本・虚淵玄（ニトロプラス）、キャラクター原案・蒼樹うめ、アニメーション制作・シャフトという陣容で、制作された「魔法少女まどか☆マギカ」。

2011年にTVシリーズが放送。2012年には総集編として『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ［前編］始まりの物語／［後編］永遠の物語』が、翌年の2013年には完全新作『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ［新編］叛逆の物語』が公開された。

今もなお色あせない魅力的なキャラクター、記憶に残り続ける魔法少女たちを取り巻く濃密な物語、独特な世界観で魔女や異空間を表現した画作りなど、それぞれのクリエイターの個性が重なりあって生み出された本作は、多くのファンに愛され続け、2021年で10周年を迎えることとなった。

そんな「魔法少女まどか☆マギカ」の節目の年に、ファンが待ち望んだ続編『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ〈ワルプルギスの廻天〉』の制作も発表された。

本書では新情報から、10年を振り返るメインスタッフ&メインキャストのインタビュー、さらに書き下ろしスピンオフ小説や豪華作家陣による描き下ろし漫画を掲載。新たな展開を見せる「魔法少女まどか☆マギカ」を、より楽しんでいこう。

# 10周年を機に振り返る
# TVアニメ「魔法少女まどか☆マギカ」

2011年1月から放送されたTVシリーズ「魔法少女まどか☆マギカ」。先の読めない展開や映像表現など、クリエイターの個性が光る作風が話数を追うごとに話題となり、大きな反響を呼んだ。ここでは名場面を、印象的なセリフとともに振り返っていく。



## 僕と契約して魔法少女になってほしいんだ

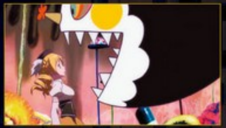
ひとりで化け物と戦う少女の夢を見たまどか。その日から、彼女の日常に変化が起き始める。夢の中の少女・暁美ほむらや謎の生き物・キュゥべえと出会い、そして魔法少女の巴マミに魔女から助けてもらったことで、まどかは魔法少女と魔女との戦いに巻き込まれていく。















## もう何も恐くない

人助けのために、魔女と華麗に戦うマミに憧れを持ったまどかは、魔法少女になる夢を膨らませていく。そんなまどかに「もう独りぼっちなんかじゃない」と勇気と希望をもらったマミは、意気揚々と魔女との戦いに赴いていくが、一瞬の隙をつかれ命を落としてしまう。



## 魔法少女になるって、そういうことよ






## 奇跡も、魔法も、あるんだよ

マミの死は、まどかとさやかに衝撃を与えた。まどかはもう「魔法少女になりたい」とは言えなくなった一方、さやかは恭介のために願いを叶え、魔法少女となる。しかし、魔法少女の真実を知ったさやかは次第にソウルジェムを濁らせ、ついには魔女になってしまい……。

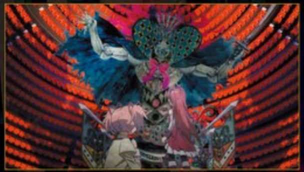


## あたしって、ほんとバカ

## 独りぼっちは さびしいもんな



最初はさやかといがみ合っていた杏子。しかし、さやかが自分と同じように、他人の願いを叶えて魔法少女となった事を知ると、次第に仲間意識が芽生えていく。そして変わり果ててしまったさやかを杏子は最後まで救おうとするが、その望みは叶わず、運命をともにすることを選んだ。












## クラスのみんなには、内緒だよ

元々は内気で身体も弱かったほむら。しかし、まどかという唯一無二の友達を救うために魔法少女となった彼女は、時間遡行を繰り返す中で、すべてを諦めたかのような冷静な性格に変わる。そして誰にも頼らず、自分だけですべての魔女を倒すことを決意していく。



## もう誰にも頼らない

## わたしの、最高の友達



ほむらの想いを知ったまどかは、ついに叶えたい願いを見つける。それは「すべての魔女を、産まれる前に消し去りたい」というもの。この願いの影響でまどかは概念だけの存在になってしまった。そのことを悲しむほむらだったが、まどかは最後に「いつかまた、もう一度ほむらちゃんとも逢えるから…」と言い残して消えていく。





# 魔法少女まどか☆マギカ10周年記念インタビューvol.1

## 監督 新房昭之 AKIYUKI SHINBO

**当時、悠木碧さんは、いい意味でオタク然としたところがあって、ホントに楽しそうにアフレコをしていたのが印象に残っています**

### 印象に残っている「メロン積み」

—「魔法少女まどか☆マギカ」(以降「まどか」)の最初のTV放送から10周年ですが、監督は節目の感覚はありますか?

そうですね……昔の自分よりは、節目の感覚があるかもしれないですね。「まどか」の記憶は東日本大震災の記憶とどうしても切り離せないので、TVで震災から10年目を迎えての特別番組が放送されているのを見ると、つい重ね合わせてしまうところもありますし。とはいえ、あまり自分から進んで重ねるようなことは、したくはないのですけれど……。

—本放送のときは第10話で一度放送が中断。その後、第10話・11話・12話が一挙放送されることになりました。一挙放送の際に、新聞の一面を使った全面広告が打たれたのは驚きでした。それ以外にもいろいろな展開があった作品ですが、当時のことで印象深く覚えていらっしゃることはありますか?

おもしろかったことだと、メロンブックスさんのタワー積みは印象深いです。

—ハノカゲ先生の描かれたコミカライズの単行本を、「メロン積み」と呼ばれる塔のように高く積み上げるディスプレイで販売されていたことですか。

そうです。「次の巻はもっと高く積まれるといいなぁ」と思いながら、お店に行った人たちが撮った写真を見ていました。すごく楽しかったですし、うれしかったです。ファンのみなさんにとっても、そうした自分たちが応援していることのシンボルが目に見える形であるのは、誇らしいだろうなと思いました。

—そういっていただけると、きっとディスプレイを企画された当時の店員さんもよろこばれると思いますよ。

また何か機会があったら、やってもらえるとうれしいですね。

—キャストのみなさんとの思い出はありますか?

「まどか」は当時、悠木碧さんが一番新人だったのかな。アニメファンというか、いい意味でオタク然としたところがあって、ホントに楽しそうにアフレコをしていたのが印象に残っています。

—新房監督の作品だと、アフレコのあとにお食事に行かれるケースも多いですよね。

「まどか」ではあまり行った記憶がないです。土曜日の夕方帯のアフレコだったので、いつもなら飲みに行くパターンだったんですが、そうはなりませんでした。話が重いから、あまりそんな気持ちにもならなかったからだと思います。重たいストーリーのアニメだとそうなるんだというのは、この作品で初めて知りました。

—当時のアニプレックスの担当だった方のお話だと、放送の半年前ごろからものすごい勢いで作業が進んでいったとか。

ギリギリまで逆に宣伝しない戦略だったこともあって、アニプレックスさんで宣伝を担当された方も大変だったと思います。独特なやり方をするなと、横で見ていて不思議に感じていました。アニメのオリジナル企画だと、もっと前から期待を煽ることが多いですから。その代わり、普通の魔法少女ものとして露出させたり、今思えば意外な雑誌に登場して宣伝していたりもしましたね。

—文化庁メディア芸術祭をはじめ、いろいろな賞を受賞した作品でもありましたが、そうした点についてはどうでしょうか。

個人的に賞のことを考えることはありませんが、関係者のみなさんががんばったことの記念みたいになるのは、うれしかったですね。

### ものすごかったキュゥべえのインパクト

—10周年の節目で、新房監督がやりたいことはありますか?

「節目だから記念イベントをやりましょう」みたいなものではなくて、ここからまた新しいことをやりたいですね。ただ、自分から特別に何かをやる気はありません。新しいことをやるお話があったら、よろこんでやります、と。それから、ファンのみなさんから忘れられないでいたいなとは思いますね。

—アプリゲームの『マギアレコード』での盛り上がりもありましたし、根強いファンがいる作品ですよね。

でもどうしても、少しずつインパクトはなくなってしまうものですから。放送されていたころは、キュゥべえのインパクトがやっぱりすごかったですからね。白い丸にキュゥべえの目と口が描かれただけのものや、キュゥべえのセリフが書いてあるだけのものが、たくさんグッズで出ていましたからね。

—ありましたね(笑)。

新しいことをやっていって、またあのころの勢いが戻ってほしいですね。

—新しいことと言うと、まどか関連作品でやってみたいことはあるのでしょうか?

アラサーマミさん(『巴マミの平凡な日常』)を以前はアニメ化したかったんですけど、ドラマもいいかなと思っていたんですよね。「まどか」のお料理教室とか出してもいいかもしれない。まずはマンガから始めて。

—あの5人の中だと、料理が上手そうなキャラは誰でしょう?

いやいや、下手なまどかが、いろんなところで勉強してくるんですよ。で、最終的にマミさんに全てぶち壊されて終わる。ご意見番的なポジションがマミさんなんです。

—そんな中学3年生はイヤですよ!(笑)。

そこが面白いんじゃないですか?(笑)。もし実現したら、ノリノリで監督します。料理ものがやりたいんですよね……。最近は暗いニュースも多いですし、少し穏やかな作品をやりたいような気持ちがあります。

—最後に、先日イベントで発表された新作『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ〈ワルプルギスの廻天〉』は、今どうなのでしょう?

作業は進んでいますので、次の発表までお待ちいただければと思います。

—10周年プロジェクトもありますし、気長に待機する形ですね。

**マンガで「まどか」のお料理教室とか出してもいいかもしれないですね**



Profile

**新房昭之**
しんぼうあきゆき
最近の代表作に『美少年探偵団』(総監督)、『続・終物語』(監督、シリーズ構成)、『Fate/EXTRA Last Encore』(総監督)など。

# 魔法少女まどか☆マギカ10周年 記念インタビューvol.2

## 脚本 虚淵 玄(ニトロプラス)

GEN UROBUCHI

### 「まどか」で学んだ アニメ作品での脚本

——『魔法少女まどか☆マギカ』(以降「まどか」)が10周年です、長い時間が経ちました。

そうですねぇ。ホントにもう、世の中が想像つかないぐらい、いろんな変化が起きて……。時代が移り変わっていく中で、それでもいまだに「まどか」をみなさんが覚えていてくださって、それどころか、新作コンテンツすら出来つつあるという状況は、ホントにうれしいというか、感激です。

——今日はあらためてこの10年を振り返っていただきたいのですが、まず放送前後の思い出として浮かぶのはどんな出来事でしょうか?

10年前と聞いてなぜか、真っ先に思い出されるのはお台場のガンダムです。

——なんと(笑)。10年前のことですから、今立っているユニコーンガンダムではなく、『機動戦士ガンダム』に登場するガンダムの1分の1スケール立像ですよね。

そうです。あれを見たとき「生きてりゃ何が起こるかわかんないなぁ」なんて思ったのが10年前かぁ……と。今となっちゃ、動いてますからね。

——横浜の可動式のガンダム、すごいです。

そんなふうに、世の中の変化のスピードはどんどん増していく一方で、まったく想像もつかなかったような時代が来ている。そんな10年間ですね。

——「まどか」を書いたことで、自分の仕事に与えられた影響はありますか?

僕個人の立場は激変しましたね。突然アニメの脚本の、まるで大御所みたいな扱いを受けることになって。その状況に対して、「俺、ひとりで全話の脚本を書いたの、これがはじめてだよ。どっちかっていうと新人の立場なんですが……」と、戸惑いのような気持ちがありました。でも、そう扱われるようになったおかげでいろんな仕事をさせてもらえて、見識も広がりました。ただ……今になってもなお、アニメのホン(=脚本)をどう書けばいいのかは、そのとき、そのときの企画ごとに悩むところが大きくて、10年経っても全然、自分が芸歴を積んだ意識はないですね。結局その、アニメは現場ごとにやり方が毎回変わると思い知らされた10年だったな、と。それでも10年は経ってしまっているんだから、あらためて考えても不思議です(笑)。

——その意味ですと、「まどか」の現場ならではのやり方を経験したことで、影響を受けたことは何かありますか?

うーん、これは人に言ったら怒られる……特に師匠筋にあたるみなさんに聞かれたらちょっと怖いんですけど、初稿では尺(=映像の長さ)を気にしなくなりましたね。というのも、「まどか」の10話が、ホントはあれ、尺の換算で考えたら絶対やっちゃいけない分量のホンだったんですよ。にもかかわらず、演出や絵コンテの、まさにマジックと呼ぶしかない技で、素晴らしいものに仕上げてもらって、その結果、作品がいい評価を得る節目の話数になった。その経験で、「お行儀いいホンを書いたって、いいものになるかどうかは関係ない」と学んでしまったというか(苦笑)。それこそ、監督や絵コンテの方々のセンスや、映像に盛り込みたい部分、そういったところとの相乗効果で脚本をどう尺に換算するかは決まっていくものなんだな、と。そういう学びが、「まどか」ではありました。それがいい学びだったのかどうかは置いといて(笑)。

——(笑)。

尺が長くなりそうなくらい、ホンはちょっと多めに書いとくぐらいがいいのかなって。最初はそう書いておいて、現場の反応を受けて削ろう、みたいな。そういう変な癖はつきましたよね(笑)。監督によっては、「この内容でいけます、詰め込みましょう」と考えてくださる監督さんかもしれなくて、そういう方のときには、先に安パイをとって短めのホンをあげちゃったりすると、中身がスカスカになっちゃったり、つまんなくなるかもしれないですし。そういう、いい意味での事故を期待するのも、アニメを作るときはアリなんだと知った作品でした。奇しくも最初のシリーズ構成・全話脚本が「まどか」だったばっかりに、自分、ちょっとお行儀の悪いライターになったのかもしれませんね(笑)。

> いまだに「まどか」をみなさんが覚えていてくださって、それどころか、新作コンテンツすら出来つつあるという状況は、ホントにうれしいというか、感激です

——作品の外側の部分ではなく、ご自分の作家性の部分に、「まどか」を書き上げたことで起こった変化はなかったのでしょうか?

うーん、どうですかねぇ……。「まどか」以前に関わったアニメのように、先導してくださる先輩がいない状況で、ひとりで文芸の仕事を無事にやり遂げられたというのは、ひとつの自信にはなりました。そういう意味での成功体験を積めたというのは、大きいですよね。あと、まぁ、すんなりいった企画ほど上手くいくという経験則みたいなのはありますね。企画が右に左に迷走し始めるときは、何か根幹の部分が間違っている。だから迷って面白いものになったことは、この10年の経験ではないですね。当たり筋というものは、往々にしてすんなりいくものだな……という、博打の感覚みたいなものは、この作品を書いたことで手に入った気がします。とはいえ、「まどか」がその最たるケースで、ここまですんなり進むことは珍しいですけどね。

### 「まどか」は 自分の中の「青春」

——作品やキャラクターの見え方に、この10年で変わったところはありますか?

その点だと、自分自身の変化が大きかったですかね。今にして思うと、よく自分の筆で女の子が書けたよなと。今でもお誘いいただく企画の中には、当然、美少女が出てくるケースもあるんですけど、『仮面ライダー鎧武/ガイム』と、これから世に出る予定の、次の「まどか」の劇場版……その辺を境に、十代の少年少女が書けなくなっているんですよね。

——そうなんですか。驚きです。

そのあとに「Thunderbolt Fantasy Project」を書くようになって、そこでようやく自分の芸風が固まった手応えがあったんですよね。気が付いてみるとホント、おっさんとセクシーな悪女だけで話が回る、バトルものばっかり書いていて(笑)。だから、昔書いた脚本を読み直すと、ちゃんと、十代の女の子のそれっぽい悩み事のセリフを書けていることに驚いたりするんですよ。「昔はよくこんなん書けたな」って。だから今、年若いキャラクターが主軸になる企画だと、僕は大抵構成案止まりで、実際にホンを書く作業は他の人にお願いしているんです。

——思春期を書ける時期が「まどか」のあとで終わってしまった。

そうそう。だからやっぱり、「まどか」は自分の中の「青春」ではあったんだなという気はします。その後の10年間は波乱万丈だったこともあり、ある種の若かりしころの思い出みたいな輝きがありますよね。見ると、「あのころはこんなことが書けていたのか」と驚くようになった。ま、ただ、自分と同年代でも今なおちゃんと若い子を書ける方もいらっしゃいます。そういう方を見ると、ホントにすごいと思います。

——「まどか」をお書きになられていたのは三十代半ばから後半にかけてで、いわゆる「青春」の時期ではなかったわけですが、そこからでもまだまだ、人間は変わる。

多分、これからも変わり続けるんだろうなって気がしますよ。……そればっかりは今から予想もつかないですけど(笑)。あと、自分の変化もなんですが、少年少女の在り方って、やっぱり時代で変わっていくものですからね。今の十代後半から二十代前半ぐらいのお客さんにとっての、恋人にしたい女性像がもう想像つかないんですよ。さすがに四十も後半になると「いやいや、熟女一択でしょ」みたいになっちゃって「いやそれ市場も違うだろ」みたいな(笑)。

## 昔書いた脚本を読み直すと、ちゃんと、十代の女の子のそれっぽい悩み事のセリフを書けていることに驚いたりするんですよ。「昔はよくこんなん書けたな」って

——(笑)。

それこそ普通のアニメと違う市場や、懐古主義が前提の企画ならいいんですが。自分が知っている青春とか、十代のころの悩みつらみみたいなものは、多分もう時代遅れになっていて、それは仕方ない。だから今書けるものを書いていくしかないだろうなと思っています。

### 世の中の娯楽に適応していく「まどか」

——周辺展開も多い作品ですが、興味深く見ているものはありますか？

それを言ったら、そもそも今なおいろいろなことを続けてくださっていることが何よりおもしろいです。ソシャゲなんて、書いた当時は娯楽のスタイルとして想像しなかったようなものですからね。ここに「まどか」がちゃんと適応してコンテンツとして成り立っているというのは、僕からしてみると意外なんだけど、ホント、やってくださった方々の創意工夫はすごいものがあったと思います。なんだかんだで、ベースになるデザインは変わっていませんからね。これがガンダムなら、もう全然違う形になっていると思うんですけどね。10年経ったら、MS（モビルスーツ）の線の量が倍になってるだろうみたいな。

——ガンダムだと初代から『逆襲のシャア』くらいまでの時間ですからね。

でも『マギアレコード』も、まだちゃんと（蒼樹）うめ先生のデザインのベースは、今なお生きている。ソシャゲからもっと先まで、世の中の娯楽に新しいアイデアが出てきたとき、どこまで「まどか」が適応していけるのか。そこはすごく興味がありますし、見届けたいですね。

——ちなみに『マギアレコード』では、虚淵さんと同じニトロプラス所属の下倉バイオさんが執筆する、本編（TVアニメ）と関わりの深い『魔法少女まどか☆マギカ scene0』が発表されました。虚淵さんはタッチされているんですか？

いや、全然です。いちおう話は聞いていますが。あれは元々下倉が持っていたアイデアを、彼が上手く「まどか」の世界に落とし込んでくれています。そういうちょっと目先の違うアイデアを受け止められるくらい、懐広い可能性を持ったジャンルに「まどか」がなってくれたんだなっていうのは、自分としてはうれしいですね。

——魔法少女とそれを取り巻くシステムという設定には、かなりの拡張性があったなと。

まぁねぇ。たまたまですけどもね、本編そのものは1クールで終わる話でしたからね。こんな風にいろいろ広げていけるっていうのは、それこそ「新編」の広げ方を思いついたときに、書いた自分自身が驚いたようなところはありましたし（笑）。想像外ではありました。これってきっと、子育てみたいなものなんでしょうね。そのたとえでいうなら、成人式を過ぎちゃったら、その子がどんな人生を歩むのかなんて親からコントロール出来るもんでもないじゃないですか。でも、その子なりにいろんなものを手に入れて、しまいにはその子が親になったりして……という形で育っていく。そういうものなんだなって考えると、まぁ、結局、自分が「まどか」という作品に出来ることって、見守ることぐらいなんですよ、もはや。いや、立派に育ってくれましたよ、この子は（笑）。

——（笑）。しかし、そうやって作品が残り続けることはよろこばしくもあり、同時にいつまでも世間で「『まどか』の虚淵玄」という扱いが続くことにも繋がりませんか。そのことについては、どんな思いがあるのでしょう？

いやー、それは気になりませんよ。そもそも「虚淵玄」が自分の名前だという意識も、最近では薄れましたしね。あまりにも、世の中でいわれる「虚淵玄さん」のイメージがよくわからなくなってるんで。「あそこで語られているのは誰だ？」みたいな印象なんですよ。そのイメージに引っ張られるのもつまんない話ですし。あんまりそういうことは、近頃は意識しないでいます。それがなんとかなっちゃう世の中にもなってきましたし。

——どういうことでしょう？



一時期ほど、クリエイターの名前が作品に結びつく空気がなくなってきたように感じているんです。「作家買い」みたいな空気よりは、コンテンツそのものの良し悪しを見る流れになりつつあるんじゃないかなと。これからその流れは、もっと強くなるんじゃないかという気がします。インターネットというか、SNSというか、そういうアバター文化の恐ろしさみたいなものはけっこう目にする機会も多かったので、世の中の「虚淵玄さん」と自分をちゃんとすり合わせようとすると多分やけどする。だからあくまで、ろくに会ったこともない人が語る「虚淵玄さん」は俺自身とは別人だよねというスタンスを崩さずにいきたい。仕事の場では、目の前にいる人とちゃんと話した上で、何をやりたいのか、何をすべきなのかを詰めながらやっていくのが誠実なんじゃないかなぁ、と。だからそう……こと仕事の話では、「『まどか』の虚淵玄」というイメージを持たれていたとしても、それがマイナスに働かないような人とお仕事をしていくべきなんだろうなという気がしています。「いつものノリで、キャラをマミらせてくださいよ」みたいなことを言ってくる人の仕事は、受けちゃいけないんだろうなぁって（笑）。

——「ショッキングな虚淵節でお願いします」みたいなのは違う、と。

そういうことです。それをやりたいなら、やりたい人を探してやってもらえばいいのであって、自分に頼むことではないです。直にお会いした上で、自分に「何をやらせたいのか」「何が出来ると思っているのか」をちゃんと詰めてお話しした上で、「それは面白そうですね」ってなったときに仕事を進めていければいい。幸いそれが出来る環境である限りは、そんなに世間のイメージみたいなものを気にしてもしょうがないし、気にしないで仕事が出来る環境をなるべく作っていくべきなんだろうなというのが、今の率直な気持ちです。

### 力強く育った「まどか」を見守って欲しい

——では、そろそろ締めに向かおうと思います。まずは10年間作品を楽しんでくださっているファンのみなさまへ一言お願いします。

10年間楽しんでくださっているお客さんとなると、もうホント、まずは「お互いいろいろありましたよね」ですね。それぐらい、世の中はガンガン変わり、価値観も変わり、ビジネスの形態も変わった。その中で、それでもまだ「まどか」のことを覚えていて、見守ってくださっていることには、本当に感謝の言葉しかありません。ありがとうございます。裏を返せば、これだけ時代の荒波にもまれても、まだ作品としての力を保てている「まどか」は、本当に強い子に育ってくれたな……と、親のひとりとしての感慨はありますね。ぜひこれからも、大きくなったこの子たちの活躍を見守っていただければと思います。

——そして最後の質問です。「まどか」は虚淵玄という作家のキャリアの中で、どういった位置づけの作品だと今はお考えですか？

繰り返しになってしまいますが、「青春の輝き」ですかね。こんなキラキラした作品を書けたころがあったなと、振り返るような作品。本当に、輝かしい思い出です。終わってすぐそう言うのは問題があったでしょうけど、10年経ったということは、そう言い切っていい気がします。



Profile

**虚淵 玄**（ニトロプラス）
うろぶちげん
代表作に『Fate/Zero』（原作）、『仮面ライダー鎧武／ガイム』（メインライター、脚本）、『GODZILLA』（ストーリー原案、シリーズ構成、脚本）など。

# 魔法少女まどか☆マギカ10周年記念インタビューvol.3

キャラクター原案

## 蒼樹うめ

UME AOKI



※3 10周年お祝いイラスト

### 台風が竜巻になるような感じだった第9話、10話の盛り上がり

——「魔法少女まどか☆マギカ」（以降「まどか」）が10周年を迎えました。蒼樹先生としては、「もう」10年でしょうか？　それとも「まだ」10年ですか？

そのあいだぐらいの感覚です。「もうそんなに経ったのか」とも感じますし、あくまでTVシリーズから10年で、あいだには劇場版や他の展開もあったので、あまり「10年経った」という感じがしないところもあります。自分としてはこの10年間、途切れずに「まどか」関係のお仕事をさせていただいていたようにも思いますし……そう考えていくと、「もう10年かぁ」みたいな感覚の方が強めかもしれませんね。

——10年前の世の中の盛り上がり方は相当なものでした。

そうですね。最初は「この作品、人気出てくれるといいね」くらいの穏やかなテンションから始まっていたと思うんですね。放送前の注目度が、そこまで高かった記憶もないので。

——話題作ではありましたが、大ヒット確実！　みたいな空気ではなかったように思います。

ですよね。当時のことで印象に残っているのが、たしか第4話あたりのダビング作業か何かのときだったと思うんですけど、その場にいたみなさんと「大変なことになってきましたね～」みたいな話をしたんです。

——マミが死ぬ第3話の放送直後ですよね。あの話は物語の上でも、作品の注目度の高まりという点でも、大きなターニングポイントでした。

でも私は、その時点ではまだまだ他人事っぽいというか。「盛り上がっているみたいだなぁ」と思いながら、その渦中にいる感じは全然なかったです。「なんかすごいなぁ」「ね、すごいですね」みたいな感じの会話をしてました（笑）。他の関係者のみなさんもまだあまり実感はなかったのかもしれません。

——そのあと、盛り上がりを実感されたタイミングはありました？

「これはホントにすごいことになってきた」と感じたのは、やっぱり第9話、第10話あたりでした。もう、ゴーッ！と風速が上がってくる感じというか、窓の外の台風が竜巻になるような感じでしたね。でもそこから震災があって、最終話がいつ放送できるかわからなくなって……というか、世の中全体がそれどころではない状態になって。

——東京だと第10話のオンエア予定日の前日に東日本大震災があって……。

そうですね……ものすごく揺れて、揺れがおさまってちょっとホッとしたときに、「放送はどうなるんだろう？」とまずは思いました。でも、その日の夕方ぐらいからニュースで地震だけでなく津波や原発の報道も始まって、「あ、何も終わってない、それどころではない」と感じて、一度、「まどか」のことは全部頭の中から吹き飛びましたね。シャフトさんのスタジオがどうなっているかもわからなかったですし。そういういろいろがあって、最終回の放送が出来るようになるまで実際どれくらいかかったかもちょっとハッキリ覚えてないくらいなんですけど、なんだかすごく長かったなぁ……という感じでした。

——10周年記念サイトが公開されたあと、ファンのみなさんのリアクションをSNSで少し見てみたのですが、やはり作品と震災の記憶が結びついている方も少なくない印象でした。お聞きするのは少し心苦しいのですが、蒼樹先生は何か、当時の出来事で印象深く思い出されるものはありますか？

あのころは、家から出ていいのかいけないのかもよくわからなかったですし、夜は地震速報が鳴るのが怖くて、ずっとベットで寝れなくて、ソファで寝たりしていたんですよね。そういうバタバタした状況が続く中で、最終話が放送されることになって、新聞に一面の広告を出していただいた。あれがすごくうれしくて。作業机の前に貼って、かなり長い間それを見てたなぁ……と。最終話自体は、当時は見ていてもちょっと夢のようというか、ぼんやりした気持ちになってしまって。「これを今、みなさんも一緒に観てるのかなぁ」なんて考えながら、ホッとしていたのを覚えていますね。

——あらためて、作品の内容について は、今振り返って、どんなことを感じますか？

やっぱり第10話はすごく思い出深くて、展開がわかっていても泣いちゃいますね。大好きです。それからさやかちゃんのソウルジェムが濁り始めてから、完全に濁りきるまでの第8話。あの話の最後でキュゥべえがいう「この国では、成長途中の女性のことを『少女』って呼ぶんだろう？　だったらやがて魔女になる君たちのことは、『魔法少女』と呼ぶべきだよね」というセリフも、何度聴いても鳥肌が立ちます。あと、リアルタイムでも感じていましたが、10年経って余計にそう感じるようになったのが「僕と契約して魔法少女になってよ」というセリフの強さ。「まどか」は、観た方が作中のセリフを日常生活で使ってくださっているのが、10年経った今でもちょこちょこ自然に耳に入ってくるんですけど、あらためてあのセリフは強かったな……と、しみじみ感じます（笑）。

——たしかに、ついつい口にしたくなったり、何かの折に思い出されるようなセリフが多いです。

各話のタイトルにセリフを使っていたのも、すごく効果として強かったんだろうなぁと思います。タイトルに使われたセリフは、やっぱり全部頭に染みついたというか、フレーズとして記憶に残っていますね。

### 思い出深い劇場版のキービジュアル

——10年経って、作品を取り巻く状況や環境の中で変化を感じたことはありますか？

あまりアニメ業界の内側には詳しくないので、外から見ていて感じた部分になりますが、ＮｅｔｆｌｉｘだったりＨｕｌｕだったりアマプラ（Ａｍａｚｏｎ Ｐｒｉｍｅ Ｖｉｄｅｏ）だったり、動画配信サイトがものすごく増えて、配信でアニメを観る方もすごく増えたのは大きな変化かなと感じています。自分でもアニメを観るときに、録画をしなくてもよくなったというか、「あ、これは後から配信サイトで観られる！」と思うことが、すごく増えました。あと、作業中に流しっぱなしにしやすいので、アニメを観る時間が増えましたね。そうやって再生しているとときどき、「オススメ作品」みたいな形でバッと「まどか」が出されたりして、そんなときはなんだか妙に恥ずかしい気持ちになったりします（笑）。

——不意打ちで自分に関係のあるタイトルが出てくると、なんだかドキッとしますよね（笑）。「まどか」関連の描き下ろしをする機会も、この10年でかなり多かったかと思います。ご自身でも印象が強く残っているイラストはありますか？

劇場版のキービジュアルですね。『総集編』用に描いた一点（※1）と、『叛逆』用に描いた一点（※2）。ポスターとかにもたくさん使っていただいた二点のイラストは、描くときにものすごく悩んだのもあって、非常に印象深いですね。見る機会も多かったですし、直したくなったりもするんですけど。そのときの、自分としてはベストな形のまどかたちを出そうという気持ちと、プレッシャーがすごく大きくて、二枚ともかなり緊張して描いたんです（笑）。

——苦しかった分、思い出深い。

逆にプレッシャーなく描けたイラス

> やっぱり第10話はすごく思い出深くて、展開がわかっていても泣いちゃいますね。大好きです

トの中で印象深いものとして、シャフトさんでポスターに使っていただいた、アルティメットまどかと悪魔ほむらちゃんのイラストがありまして。描いていてすごく楽しかったし、今でも気に入ってる絵ですね。

——いい意味で肩の力を抜いて描けた？

というか、「描きたいものを描いたな〜」という気持ちでした（笑）。本編では描けないようなシチュエーションでしたし。「何を描いてください」って指定が確かなかったので、ホントにファンアート的に描かせていただいたところがあって、楽しかったです。

——10周年記念の描き下ろし（前頁の※3）はいかがでした？ そもそも、依頼時に何かテーマの設定はあったのでしょうか？

テーマは特にはいただいてなかったような気がします。「基本まどか単体でお願いします。単体じゃなくてもいいです」みたいな感じだったような。雰囲気の指定なども特になかったはずですね。自分としては、やっぱり10年が経ったので、放送当時とはちょっと違う雰囲気がありつつ、新鮮さと懐かしさが両方あるといいなという感じを考えていました。あとはやっぱり、10年目だからこそのまどかにしたいな、とはなんとなく思っていましたね。

——具体的にどのようなところがポイントですか？

衣装設定の部分であったり、全体のバランスは基本になるべく忠実に、まどからしさを残して、線もあんまり昔のものと変えずに、塗りの方でちょっと今っぽさを出して、かつ、ノスタルジックな雰囲気を出せたらと思いました。全体に少し逆光っぽくなる色を乗せまして、ノスタルジックな感じとまどかのきらきらした感じが出てくれたらいいなと。

——この10年の大きなお仕事でいうと、『マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』（以降『マギレコ』）も外せません。『マギレコ』での蒼樹先生の仕事量は、今ではかなり膨大になっていますよね。

そうですね。なんだか気が付くといっぱい魔法少女描いてるなぁっていう感じはあります（笑）。

——魔法少女のバリエーションも随分増えて、新しいアイデアを出すのは大変では？

そうですね。自分の描いた子はもちろん、他の方もたくさん参加されているので、他の方の描かれた魔法少女と設定であったり色味であったりが大被りしないように描くのはなかなか大変です。いつも確認するんですけど、先に確認する作業から入ってしまうと、発想の範囲が狭まってしまうので、最初は、とりあえずザーッと、思うままに描いてから確認作業をするようにしています。でもそうすると、すでに登場している魔法少女と激しく被っている場合があって、そうするとイチからやり直しになるので、このやり方はけっこう効率は悪いですね。

——想像するだけで大変そうです。

いえいえ。で、アイデアが枯渇する波のときと、なんか「いける！」っていう波のときがありまして（笑）。上がってるときだと、そこまでキツくはないですね。

——『マギレコ』はアニメにもなりましたが、そちらはいかがでした？


※2『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ [新編] 叛逆の物語』キービジュアル

「まどか」でありながら「まどか」でなくて、「あー、すっごいいろは動いてるなぁ、うれしい！」みたいな感じです（笑）。楽しく観てました。すみません、なんだか単純な感想で。

——とんでもない！『マギレコ』は「まどか」キャラの再登場もありましたが、その点は？

「まどか」の子たちが登場するのは、よろこびもあるんですけど、ちょっと緊張感がともなうところもありますね。やっぱりファンのみなさんから大事にされてきた子たちですから。

——10年経つと、ご自分の作られたキャラでも、どこかファンのみなさんのものとして、自分から離れたところで大切にされてる感覚があるものなんですか？

それは確実にあります。ただ、そもそも最初から、純粋に自分の子たちではないというか、むしろ私としては4分の1……でもちょっと多いかなぐらいの感覚なんです。

——原作クレジットのMagica Quartetのおひとりなわけですから、4分の1でいいのでは。

うーん、「我が子だよ」みたいな感覚がそこまで膨らまないように、意識してるところが多少あるんです。その一方で、視聴者さんと同じ目線も強く持ちすぎないように……ということも、日々、意識しています。やっぱり基本はTVシリーズと、劇場の『叛逆』が彼女たちのすべてだと考えているというか……やっぱり、視聴者さんが感じたり考えるキャラクター像は、時間とともにどこかしらカリカチュアライズされるところはあるんですよね。それをそのまま自分のところに戻してしまうと、元のキャラの軸がブレてしまう可能性があるので。あまりそうした声には耳を傾けすぎないようにというか。基本の姿を忘れないようにと心がけるようにしています。

## 10年間何かしら続けてきてくれた作品

——なるほど。そうした視点から、10周年記念プロジェクトに期待することはありますか？「こんなイベントをやってほしい」とか、「こんなグッズを出してほしい」など。

うーん……あんまりないかもしれないです（笑）。ホントに10年間ずっと継続して、何かしら続けていただいている作品なんですよね。そういう意味で、何かこんなことをしてほしいのに〜！というような不満はたまっていないです。ずっとこちらの想像以上のことをしていただいておりますので。強いていうなら、まどかたちの先の物語が見たいというのはあるんですけれども……（笑）。

——続編で見てみたいまどかたちの姿や映像はありますか？

きっと、そんなに平和には、どうしてもなれないんでしょうけども……彼女たちらしい姿が見られたらいいなぁと思います。

——作品のテイスト上、どうしても続きがあると、つらい目に遭いそうですものね。

そうですね。魔法少女ですからね……。でもなんか、あんまりいっぱい戦わせるのはかわいそうだなぁっていう気がしてしまいますね。

——ちなみに「まどか」という作品が、世の中に与えた一番大きな影響は、何だと思いますか？

一番大きな影響は、「魔法少女」という言葉を素直に聞きづらくなったことかなって思います（笑）。「まどか」を観た方にとってはキラキラとかわいいだけの言葉ではなくなった、その言葉の一面にちょっと影みたいなのがスッと過ぎるようになっちゃったんじゃないかな、と。

——たしかに。戦う魔法少女像は前例がありましたが、ダークな雰囲気がこの言葉に付随するようになったのは、今作の影響が大きそうです。では、最後に「まどか」という作品が、今、蒼樹先生の中でどういった位置づけの作品になっているのかをうかがわせてください。

かなり難しい質問ですね、それは（笑）。やっぱりその……さきほどの話と少し被るのですが、確実に関わらせていただいたと言える作品ではあるものの、同時に、純粋な我が子ではないという意識もある作品なんですよね。

——『ひだまりスケッチ』を始め、マンガ家として、ご自分の世界としてお描きになられたものとは違うわけですよね。

はい。「まどか」の成功というのは、絶対に、１００パーセント私ひとりではありえないものですので。だから、それを作った一員に加えていただいているものの、10年経った今の目線から見ると、私にとって「まどか」というのは「本当におもしろいアニメだなぁ」というような感じでしょうか（笑）。観ているときにはあまり関係者的ではない気持ちで観てしまうといいますか。自分の仕事としてどうこうではなく、単純に「おもしろいアニメ」というのが、今の「まどか」に対する気持ちですね。それに関わらせていただいていることについては、素直に心の底から有難く誇らしく感じております！

Profile

**蒼樹うめ**
あおきうめ
『魔法少女まどか☆マギカ』キャラクター原案。代表作に『ひだまりスケッチ』。


※1『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ [前編] 始まりの物語 / [後編] 永遠の物語』キービジュアル

さあ、物語をつづけましょう。

# 劇場版 魔法少女まどか☆マギカ〈ワルプルギスの廻天〉

## STAFF

原作 Magica Quartet
総監督 新房昭之
脚本 虚淵玄（ニトロプラス）
キャラクター原案 蒼樹うめ
キャラクターデザイン 谷口淳一郎
異空間設計 劇団イヌカレー（泥犬）
音楽 梶浦由記
アニメーション制作 シャフト

## CAST

鹿目まどか 悠木 碧
暁美ほむら 斎藤千和
巴マミ 水橋かおり
美樹さやか 喜多村英梨
佐倉杏子 野中 藍
百江なぎさ 阿澄佳奈
キュゥべえ 加藤英美里

## 『叛逆の物語』の正統なる続編 そして新たな物語の始まり。

2021年4月25日(日)に開催された10周年記念イベント「『魔法少女まどか☆マギカ』Anniversary Stage」内にて、『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ〈ワルプルギスの廻天〉』の制作が発表された。2013年に公開された『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ［新編］叛逆の物語』の正統なる続編であり、原点であるTVシリーズや劇場版のスタッフが再集結する劇場版最新作だ。これはイベント終盤に突然発表され、登壇キャストたちもその内容に驚いていたが、現在はYouTubeで公開されているティザーPVと、発表されたティザービジュアル、そして〈ワルプルギスの廻天〉というTVシリーズに登場した魔女を連想させるタイトル以外、まだ詳細は明らかにされていない。今後の続報を楽しみに待ちつつ、次のページからこのイベントで発表された、そのほかの「10周年プロジェクト」や、関連イベントの詳細を振り返っていこう。

公式HP▶https://www.madoka-magica.com/
ティザーPV▶https://youtu.be/gAR0CMwEfes





10周年プロジェクト最新情報

# 新作映画『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ〈ワルプルギスの廻天〉』の制作が決定!!

そのほかにもイベントで発表された「10周年プロジェクト」や、関連情報をまとめて紹介

# 続編だけじゃない、10周年で　盛り上がる関連プロジェクト!!

## 「魔法少女まどか☆マギカ」の新たな展示会が開催決定

企画開発当時の秘蔵資料や、映像、原画、絵コンテなど、TVアニメ放送当時の制作資料の展示を始め、あのときの感動を再び体験することができる複合型展示会を予定。2021年9月末の東京・松屋銀座での開催を皮切りに、各地方も巡回して開催していく。2021年夏頃に入場券の発売が予定されているので、最新情報は公式HPをチェックして欲しい。

**開催日時**

2021.9.22（WED）
～
2021.10.4（MON）

**場　所**

TOKYO MATSUYA GINZA
floor-8F

**入場券**

東京会場　2021年夏　券売開始

## 「魔法少女まどか☆マギカ」サウンドトラック2枚がサブスクリプションサービスで配信！

「魔法少女まどか☆マギカ」のオリジナルサウンドトラック、「魔法少女まどか☆マギカ」MUSIC COLLECTION、「魔法少女まどか☆マギカ」Ultimate Bestの２枚が、現在SpotifyやApple Musicなどの主要ストリーミングサービスにて配信中。作品を彩った梶浦由記の楽曲から、魔法少女たちが歌うキャラクターソングまで、いつでも好きなタイミングで「まどか☆マギカ」の音楽を聴けるようになった。

「魔法少女まどか☆マギカ」
MUSIC COLLECTION





「魔法少女まどか☆マギカ」
Ultimate Best



## 「魔法少女まどか☆マギカ」関連書籍も各社より発売予定

芳文社より、TVシリーズコミカライズ全3巻を大幅な加筆・修正を加えて上下巻に再編集した「魔法少女まどか☆マギカ 新装版」（著：ハノカゲ）が今秋発売予定。また蒼樹うめがこれまで描き下ろしてきた「魔法少女まどか☆マギカ」のイラストを1冊にまとめた豪華イラスト本も年内発売予定。さらにシャフトからは、これまでの版権絵をまとめたアニメーション版権画集と、『［新編］叛逆の物語』のKEY ANIMATION NOTE2冊が今秋に発売予定となっている。









大人気コミカライズが
大幅な加筆・修正で新装版に

## 「劇場版 魔法少女まどか☆マギカ 10th Anniversary Compact Collection」が発売中

「魔法少女まどか☆マギカ」の10周年を記念して、劇場３作品の『［前編］始まりの物語』、『［後編］永遠の物語』、『［新編］叛逆の物語』がすべて収録されたコンパクト仕様のBlu-rayBOXが発売中。特典として、キャラクター原案・蒼樹うめ描き下ろしBOXと、キャラクターデザイン・谷口淳一郎描き下ろしデジジャケット、映像特典としてノンクレジットOP/ED＋PV集などを収録。価格は、8,580円（税抜価格7,800円）となっている。









## 「魔法少女まどか☆マギカscene0」の制作が決定！

アプリゲーム『マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』の新プロジェクト「魔法少女まどか☆マギカscene0」の制作が発表された。これはまどかやほむらが戦う、繰り返しの世界で起きていた物語を、『マギアレコード』内で楽しめるというもの。シナリオは下倉バイオ(ニトロプラス)が、新たな魔法少女の原案を蒼樹うめが担当。ニトロプラスが開発協力し、新たな魔法少女の物語を描いていく。PV内には「ワルプルギスの夜へと至る繰り返された世界」「存在を消された魔法少女」など、物語の内容を示す単語が出されており、新たな魔法少女・愛生まばゆが、まどかとほむらにどう関わってくるのか、今から非常に楽しみな作品だ。

▼特設ページ
https://magireco.com/madoka-magica-scene0/

▼PV
https://youtu.be/TXf6q0NzvgM

魔法少女まどか☆マギカ scene0
Original Story for Magia Record

STAFF

キャラクター原案　蒼樹うめ
シナリオ　下倉バイオ（ニトロプラス）
開発協力　ニトロプラス
開発・運営　f4samurai



これは、まどかやほむらが戦う、繰り返しの世界で起きていた物語。


暁美ほむらの苦悩
カエルDX
カエルDXが全カレポ漫画化!!
2021年4月25日に開催された「魔法少女まどか☆マギカ」Anniversary Stageの模様をお届け!!
第10回ほむらサミット
開幕
バーン
まどかを引き裂いてもう随分経つけど…
くくく…
過去の私たちはお変わりないようで…
カチン
リボンほむら
悪魔ほむら
今年もこの日がやってきたようね
フッ…
もう10年も経ったんですね
眼鏡ほむら
クールほむら
あなたが余計なことするから全部めちゃくちゃになったんじゃない!!
あらあら…最新オフィシャルほむらである私に文句でも…？
おこほむっ


…という漫画にしようと思ってます
フフフ…
漫画家 カエルDX
あ～…言いにくいんですけど…
芳文社編集 S氏
漫画はイベントのレポ漫画でお願いします…
スマン…
!?
ピク…
ズォ…オ…オ…
魔女化すな
※信じてください!! 芳文社に脅されてます!!
というわけで…(ジェット立ち直り)
オンラインだから家で見るわよ。
「魔法少女まどか☆マギカ」Anniversary Stageのイベントレポをしていこうと思います!!
バーン
豪華キャストが集結したこのイベント…
水橋かおりさん(巴マミ役)は開場前のアナウンスで登場☆
悠木碧さん(鹿目まどか役)
喜多村英梨さん(美樹さやか役)
斎藤千和さん(暁美ほむら役)
野中藍さん(佐倉杏子役)
加藤英美里さん(キュゥべえ役)
一体どうなるのか楽しみです!!


開幕まどか語録が飛び出す
イェ〜イッ
濁ってますかー!?
配信の契約ありがとう!!
まずは過去の舞台挨拶等の映像で「まどか☆マギカ」の歴史をおさらいして
2011年1月 テレビ放送
2012年10月 劇場版前後編
2013年10月 劇場版新編叛逆
⋮
2021年4月 Anniversary Stage
ハァハァ
うわ〜
当時の舞台挨拶の若い自分を見てざわつくキャスト陣
各話振り返りコーナーではぶっちゃけトークが!!
第4話〜6話
さやかに心の内をぶつける恭介
さやかが魔法少女になる
魔法少女、杏子の登場
ワルプルギスの夜 襲来
恭介はやめとけ!!
荒ぶるキャスト陣
恭介なんかやめた方がいいって!!
だから杏子なんだって
真の彼氏…
杏さや過激派…!!
キャストの想い出と共に振り返る至福のひと時!!
特に悠木碧さんの「まどかは周りに愛されてきたからこそ変身する決断ができた」という話には目覚めた心が走り出した…
そして「あなたが選ぶ名シーン投票」では『#09魔女化したさやかへ、杏子の呼びかけ』が見事1位に
第1位
#09 魔女化したさやかへ、杏子の呼びかけ
おぉ…!!
2位の『#10ワルプルギスの夜の撃退後、ほむらがまどかと交わした約束』に投票してたオタク
そしてそのまままさかの生アフレコ!!
(息を止めて聴く)
声の震えや細かい息づかいも演技に出ていて本当に凄かった


さらに「ClariS」によるメッセージ&ライブ!!
クラスのみんなには
内緒だよ…!
コネクト・ルミナス・カラフルのまどかOP御三家を披露したぞ!!
最後にお知らせのコーナー
ハァ
『アレ』は…
ハァ
商品やイベントの告知がされるが…
『アレ』はないのか…!!
ブヅッ
フリーズ演出!?
バ
奇跡も魔法も新作も…
あるんだよ!!
ン
劇場版 魔法少女まどか☆マギカ
〈ワルプルギスの廻天〉
うわあああああ!!
(円環の理に導かれる)
完

魔法少女まどか☆マギカ10周年
記念インタビューvol.4

キャラクターデザイン・総作画監督

# 谷口淳一郎

JYUNICHIRO TANIGUCHI

## 10年間変わらない「まどか」の絵柄

――「魔法少女まどか☆マギカ」（以降「まどか」）が10周年を迎えた今のお気持ちは？

ホントに、こんなに長く続くと思いませんでしたね。……というか、僕の場合、「まどか」関連の仕事が毎月途切れずにあるんで、「10年経った」というよりも、僕の中では10年、ずっと続いている感じですね。

――［新編］が公開されて、関連の作業が一段落したあとも、定期的に版権イラストの発注があった感じでしょうか。

そうですね。毎月1～2枚は必ず何かしら描かせていただいていて、しばらくしたら『マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』（以降『マギレコ』）のゲームが始まって。ホント途切れない。

――そんな10年の中で特に印象深い出来事となると？

やっぱり［新編］ですかね。そのあと『マギレコ』も始まったし、次の劇場版もあるわけですが、やはり作品としてのひとつの節目はそこにありました。

――谷口さんご自身の「まどか」に対する変化はありました？

僕は動画工房の所属で、シャフトの所属ではないんです。だから、いつも別の仕事があるんですよね。そういう、何か別の作品と「まどか」を常に掛け持ちしている状態が自分の仕事のスタイルになったのが、変化ですかね。

――「まどか」の絵柄は特徴的なので、混乱されたりはしないものですか？

最近は元請け作品も多いですけど、動画工房はもともと下請け会社だったんで、いろんな作品をやっていたんですね。『ポケットモンスター』や『星のカービィ』みたいな作品から、それこそ『北斗の拳』みたいなリアルな感じのキャラクターが出てくるやつまで。なので、そういうのはもう慣れているというか、アニメーターなのでなんでも描けるのは当たり前みたいな感覚です（笑）。ただそうですね、絵柄の話でいうと、近いものよりも逆にかけ離れている方がやりやすいんですよ。近いと設定がゴチャゴチャになってしまうので、確認する時間がかえってかかる。その点、「まどか」は特徴的なだけに、他の作品をやっていてもパッと切り替えて描けるようになりました。

――蒼樹先生の絵には独特な魅力があります。

そうですね、各所で言われていると思うんですけど、唯一無二のキャラクター……かわいいだけのキャラクターなら他にもいるんですけど、あたりを見回しても、かわいいだけじゃなく、ああいうデザインチックな要素を持ったキャラクターデザインはないんですよね。アニメ化するときに少し苦労はありますが、やはりあの原案があってこそ。キャラクターの絵柄の魅力は、100パーセント、蒼樹さんの絵が魅力的だからこそだなと思いますね。年月が経っても飽きない。

――たしかに。他にも作品を見返すと、何か感じることはありますか？

先日オーディオコメンタリー（「まどか☆マギカ10周年記念番組 ～オーディオコメンタリー+最新情報公開～」第2回）の収録があったんですけど、そのときに観て、10年前の仕事と今の仕事で絵柄が普通に変わってないなって思いましたね（笑）。なんかちょっとでも進歩しているかなと思ったんですけど、まったくしてなくて。10年前に描いた絵も違和感なく見られたのは、進歩してないってことだから（笑）。

――いやいや、そんな。大変だったことが思い出されたりはしませんでした？

「まどか」は制作状況が芳しくなかったんで、ホント、毎週ひたすら大変でした。ただその分、シャフトという会社の底力を感じましたね。どんな形にせよ、週に一本は必ず完成させられる能力の高さというか、ノウハウがあるというか。

――作品絡みで楽しかった思い出はありますか？

やはりそこも、ずっと続けられているのが大きいですかね。2、3年くらい作業の間隔が空くと、絵柄を忘れてしまうこともあるんですが、ずっと続いていると思い出す必要がない。おかげで全然ストレスなくやれています。

――ちなみにお好きな話数は？

そういう話になるとやはり第3話のマミのところをあげる人が多い印象ですけど、僕は中盤の、さやかがメインの物語になってからの展開が印象深いですね。その中でも、第8話のラスト。魔女化する直前の「あたしって、ほんとバカ」とセリフをいうときの、奇跡のような顔。あれは実は、偶然出来た顔なんですよ。

――そうなんですか？

総作監として修正を入れた覚えがないんです。他の人に聞いても、誰がどういう風にキャラを整えたのかよく分からないカットなんですけど、奇跡的なニュアンスの表情になった。そのあとの爆発する展開のインパクトも含めて、強烈だなと。爆発まで持っていくまでのさやかを追い詰める流れに、この作品の神髄があるように感じています。

――キャラでもさやかがお好きなんですか？

それはないです（笑）。といっても、さやかが嫌いというわけではなく、特定のキャラがどうこうみたいなことは考えていない。まんべんなく、作品のキャラは好きですね。

## 一枚の絵でもファンの方がよろこんでくれるものを

――版権もこれまで膨大な量を描き下ろされていましたが、印象に残っている仕事は？

MADOGATARI展（※1）のための描き下ろしは、量が多かったですし、渡辺明夫さんとのコラボもよかったので、印象深いです。あとはアニプレックスさんがキャンバスアートにしてくれた絵はかなり気に入っています。コンセプトムービーのまどかが描かれているやつ。それと「ニュータイプ」の表紙になったアルティメットまどかですかね（※2）。

――どれも印象深いお仕事ばかりです。そうした膨大な版権イラストを一冊にまとめようみたいな話は出てないんですか？

版権集みたいなものを出すという話は、10周年企画であるみたいですよ。

――おお、楽しみです。版権といえば、10周年記念サイトにも描き下ろされています。あの絵のテーマもうかがいたいです。

打ち合わせではいろいろな案が出たんですが、「10周年だからローマ数字のX[※]にしようか」というのが、ベースのアイデアでした。勢いも出さなきゃいけないし、キャラもしっかりと見せなきゃいけないしで、ポージングには苦労しました。

――衣装のデザインも印象的です。

衣装はアニプレックスさんの方から、花柄……というか、「花言葉で意味を持たせましょう」という提案があって、あの形に。キャラクターそれぞれ花が違って、髪型が違うキャラもいます。マミは髪型が変わっていても分かるくらいの線を狙いましたね。まどかもちょっとパーマがかってて、気持ち、オシャレをしている感を出していますね（笑）。

――ほむらはまどかを見ているけど、まどかは見てないのが最高だなと……。

ははは（笑）。

――やっぱり、そこは狙った構図なわけですか？

はい、狙ってます。視線誘導というか、そういう要素を構図やポージングで入れておくのは、大事だと思うんですよね。どうやったら、一枚の絵でもファンの方がよろこんでくれるのかを考えます。

――やっぱりほむらはちょっと報われない感じがしないと、みたいな。

そういうお話ですからね、「まどか」って。

――最新の描き下ろしというと、もうひとつ、劇場版Blu-rayのコンパクトコレクション用のものが。（※3）




※1『～シャフト40周年記念～MADOGATARI展』
東京アンコールの会場別メインビジュアル



※3「劇場版 魔法少女まどか☆マギカ 10th Anniversary Compact Collection」



※2『ニュータイプ』2012年10月号

そうですね。これは漠然と、「飛んでいる風にしてほしい」とオーダーがありました。なので「新編」の最初のところの、まどかが堕ちた後のイメージで描いています。原画集のときにも、同じシチュエーションの絵を描いていたので、それとはちょっと別の感じにすることは意識しました。あとは自分が趣味で描く絵だと横顔が多くなりがちなんですけど、こうした商品のために描くときにはキャラは正面を向かなきゃいけない。そんな制約の中で、ギリギリのところを狙っているのも、こだわった点ですかね。

**――10周年記念プロジェクトがここから動いていきますが、「こんな企画をやってほしい」というご要望はありますか？**

ファンミーティングみたいなことをやりたいですね。宮本（幸裕）さんは出てくださる気がしますし、あとは声優のみなさんにも出ていただいて。「まどか」でそういうイベントをやったことがないので、やってみたいです。

**――イベントで直接ファンのみなさんのお声を聞いてみたい。実現したらおもしろそうです。**

やっぱり10年も続いてる作品だから、やれることだと思うんです。1クール作品だと、なかなか現場の人間とファンのみなさんが交流するのは、忙しさからして難しいので。

**――10年前、ファンのお声は意識されていましたか？**

10年前だと、今ほどにはSNSが普及していなかった印象なので、あんまり見ていなかったですね。だから反響は、まわりの人からの反響ぐらいしか分かんなかったんですけど、それでも劇場版のあたりからいろいろ「あ、こんなに有名だったんだ」って感じる反響は多かったです。あとTVシリーズの放送中止明けの新聞の一面広告ですか。あれでやっぱり「こんなに作品が大きくなっちゃったな」って感じましたね。

**――そろそろ「まどか」を見てアニメ業界に入った人とお仕事をご一緒されることも多いのでは？**

あ、いますよ。まさに動画工房に、そういう人がいます。でもまぁ、あからさまに「まどか」の話をしてきたりはしないですけど（笑）。ホント、そんな意味では、十年一昔の感覚はありますね。

**――続編はどうなるんでしょう？**

作業は進んでいます。『マギアレコード』の続きもあるし。発表された作品に関しては、着々と作業はやっています。実は表に出なかった時期も、版権イラストだけじゃなく、ずっと「まどか」の作業自体は続いていたんですよ。

**――その成果が世に出る日が楽しみです。では、最後にあらためて、「まどか」は今の谷口さんにとって、どういう位置づけの作品ですか？**

文字通り「ライフワーク」です。だからこそ、僕の仕事が劣化しないように、どんどん進歩するように努力していきたいです。

Profile

**谷口淳一郎**

たにぐちじゅんいちろう

最近の代表作に『池袋ウエストゲートパーク』（キャラクターデザイン、作画監督、総作画監督）、『イエスタデイをうたって』（キャラクターデザイン、総作画監督）、『マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』（キャラクターデザイン、総作画監督）など。



# 魔法少女まどか☆マギカ10周年記念インタビューvol.5

## 鹿目まどか役 悠木碧 AOI YUKI



### この10年間で生まれてきた「みんなの中のまどか」

**――2021年で「魔法少女まどか☆マギカ」（以降「まどか」）が10周年を迎えましたが、今の率直なお気持ちをお聞かせください。**

「長かったような、短かったような……」と言うと月並みではありますが、「まどか」という作品はとても多くの形で愛し続けていただけて。アプリだったり、遊技機だったり、何かしらのCMだったりで、1年に1回以上は必ずまどかと会っていたという10年間でした。なので、まどかとは共に歩んできたような気持ちがありますね。

**――10年前のTVアニメ放送当時に大きな話題となった本作ですが、その反響をどのように受け止められていましたか？**

当時、おそらく多くの方が「まどか」によって私のことを知ってくれたタイミングになったのは間違いなかったと思います。ファンの方たちもそうですし、クリエイターのみなさんも「まどか」を通して私に興味を持っていただけて、目まぐるしくいろんなことが変わった年だったなと思っています。

**――まどかを演じるうえでは、どんな思いがありましたか？**

まどかの印象的なセリフとしては「こんなの絶対おかしいよ」みたいな、この10年間ありとあらゆる収録で繰り返し録ってきた名言がいくつかありますが、私がまどかの本質が詰まっているなと思うのは「叶えたい願いごとがない」ことに悩んでいる姿なんですね。そういう些細なことでも幸福を得られる人だった彼女が、物語が進むにつれて揺さぶられていく話なので、そこは大事にしてあげたい部分だなと思っていました。あとは劇場版のオープニングでまどかの一生……と言っても、14年なので決して長い一生ではないのですが、彼女が生まれて、入学して、弟が生まれてという、そのオープニングが私はシリーズでいちばん泣けたんですよね。劇場版のタイミングなので、TVシリーズで彼女が何を犠牲にするかということがもうわかった状態で見るわけで、私も何となく想像はしていたけれども、改めて映像として描かれることによって人間の一生がまるっとなくなるというのは非常に重たいことなんだなと感じました。あのオープニングは、いまだに印象に残っています。

**――たしかに人の一生をダイジェストで見る映像というのは印象に残りますよね。**

また、彼女は友達にも家族にもめちゃくちゃ愛された子だから、それごと消えてしまったような気持ちになったというか……いや、そんなことはないですよね。決してゼロにはなっていないんですけど、でもリセットされてしまったような気持ちになるというか、そこが何ともせつなくて。当時、（斎藤）千和さんとふたりで映画を見に行ったときも、開始30秒とかで泣いていましたから（笑）。

**――その当時まどかに感じた思いは、今でも大切にされていますか？**

「まどかが何故まどかたるのか？」というのは、すごく重要なことだなと思っています。特に彼女は本人いわく「何の取柄もない」子だし、さやかちゃんのようなはつらつとした元気さもなければ、ほむらちゃんのように思慮深くもなかったかもしれないし、マミさんのように優等生でもなくて、杏子ちゃんのような正義感もまだ備わってない。じゃあ、何が彼女のいいところだったのかと思うと「誰も傷

つけないところ」だと思っていて。彼女が誰も傷つけないで育ってきた理由は、周りから愛されて育ってきたからだと思うし、愛されるに値するだけのいい子でもあったと思うんです。それは他の子がいい子じゃなかったという意味ではなくて、まどかという子がことさら周りの人たちに「大事にしてあげたいな」と思ってもらえるような子だったんだろうなと。そこがまどかの大事な部分だなというのは大人になればなるほどわかるというか、当時の私は一生懸命この子に寄り添わなきゃと思っていたけど、今はもうちょっと私自身が俯瞰で見られる立場になっているので、そういう目で見てみると、この子がすべての人から大事にされて、そして最終的に円環の理になる理由って、そこにあったんだなと思いますね。普通のことを、ちゃんとひとつひとつ愛せたという。それを大事にしようという気持ちはあったのかなと思います。

——そこに気づけたというのは、まどかを演じる機会がTVアニメや劇場版だけで終わらず、その後もずっと続いていたからというのもあるのかもしれないですね。

本当にそう思います。私は演じさせていただいている本人だから、作品として続いていないとしてもキャラクターに思いをはせることはあるのですが、それをファンの方とも共有できる機会がずっと続いているのはとても貴重なことだなと思います。とはいえ、みなさんの中のまどかのイメージというものがこの10年間でそれぞれに違ってきているから、アプリとかCMとかでまどかの声を聴かれた方に「あれ？　まどかってこんな感じだったっけ？」みたいに言われることがすごく多くて。でも、私も第1話のころのまどかの声を聴くと「あ、こんなだったっけ？」って毎回なるんですよね(笑)。それは当時、まどかを「色のない人」にしなきゃというふうに、みんなが動いていたようなところがあって。この子をなるべく無垢にする、染まっていない色にすることでこの物語の残酷性が増すだろうなって、私も思っていたところはありましたね。そうやってまどかを努めて無色にしたことで、この10年でいろいろな「みんなの中のまどか」が生まれてきたのかなと思うと、すごくうれしいことだなと思います。それって、みんなの中でまどかが根づいているし、理想のまどかがいるからこそじゃないですか。そういうところも円環の理っぽいなと思いました。

——「みんなの中のまどか」があるように悠木さんの中でも自分のまどかはいますか？

それはなるべく持たないようにしています。持つとその色がついちゃうし、私のまどかを押しつけることになってしまうというか、まどかほどそれをやってはいけないキャラクターはいないなと思っていて。この子はみんなに寄り添いたかったから12話を通して迷っていて、それぞれに寄り添ったからあの結果を生んだんですよ……という、そこがやっぱり重要だと思うから、なるべく元のまどかで演じようとしていて。ただ、当時のスキル的な部分での甘さみたいなものは改善されていかないといけないなとは思っています。

## 一気に世界が広がってうれしい気持ちになりました

——『マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』(以降『マギレコ』)でまどかを演じることについてはどんな思いがありますか？

ゲームの性質上、たくさん仲間が増えるじゃないですか。それがすごくいいなと思っていて。アニメで12話やってきた話だと中学生ならではの狭い世界で生きている感じというか、学生のときって視野が広くないから、とても狭い世界の中で「お友達が～」とか「恋人が～」みたいな話をしたりしていたわけで。それが一気にドンと世界が広がって、いろんな人たちの人間模様が描かれるというので何だかうれしかったのを覚えています。あとは当時「まどか」のオーディションを受けていないくらいの若い子たちが収録に参加されるようになって……たとえば我々が卒業しますとなっても、コンテンツとして後世に引き継がれる準備がしっかりできているんだなという気持ちに少しなりましたね。もちろんまだ卒業する気はないですけど(笑)、新しい物語が生まれてくるような土壌ができたことが何となくうれしかったというか、世界の広がりは感じました。

——この先、新しい物語が生まれれば生まれるほど、原点としてのまどかの存在は大きくなっていくのではないでしょうか。

それこそ私はTwitterでそのクールに出演するアニメを報告しているんですけど、そこに『マギレコ』が挙がっていなかったときにファンの方から怒られて(笑)。万が一出ることになっていたとしてもネタバレになっちゃうから書けないというのもあったけど、それだけ私がまどかとして『マギレコ』に参加することを楽しみに待ってくれている方がいるんだなと思うと、すごくうれしかったですね。でも『マギレコ』のキャラクターって、基本的にみんなまどかたちと同年代じゃないですか。それがちょっと不思議な気持ちではあります。

——声優としては後輩の方々が演じていますよね。

『マギレコ』ができるまでに何年もまどかをやってきた後だから、新しいキャラクターと一緒に出るときは「せーの」で同じスタートラインに立たなきゃ！　みたいな気持ちになってしまうという話を千和さんとした記憶があります。「うちら、ベテラン感が出ちゃうとよくないよね」みたいな話になって、当時の初々しさを思い出そうと(笑)。

——いわゆる先輩やレジェンドとして登場するわけではないと。

まどかたちのほうが登場した時点でちょっと強かったりはするんですけど、それでも同年代感は出さなきゃなというのはありました。あやねる（深月フェリシア役・佐倉綾音）とかは「まどか」に女子の役で来てくれていたんですよね。そんな彼女が『マギレコ』で「まどか」の世界に参戦しているのもうれしかったし、「ついに一緒に戦えるね！」みたいな。……私が収録した範囲では、まどかとフェリシアちゃんが一緒に戦っているところはないんですけど(笑)。

## いつ続編が来てもいいように準備だけはしておきます！

——現在10周年記念プロジェクトが進行中ですが、やってほしい企画などはありますか？

すでにコメンタリーの収録や取材をたくさん受けさせてもらったこともあって、まずは「10年経ったね」ということをみんなで共有できることがうれしくて。でも、何をしてほしいかと言われると、逆に10年続いたら20年目もきっとあるだろうなと思えるから「今、焦らずとも」みたいな気持ちではあります。ただ……そういう作品ではないからやることはないだろうけれども、もし歌ったり踊ったりすることがあるなら早めにやってほしいという気持ちはありますね。きついので、もう(笑)。それはさすがにないかなと思うので、やるんだったら、私の希望としてはみんなで海外に行きたいですね。フランスとかアメリカとか行きたいです！

——「まどか」関連で海外に行かれたのは、2019年11月にニューヨークで行われたコンベンションで『マギレコ』の先行上映があったときが最後ですね。

そのときにアメリカの人たちが一生懸命『マギレコ』を見ている姿を見て、全世界で愛してもらっているんだなというのを感じたんですよね。日本のお客さんはわりとクールめの反応をされますけど、アメリカのお客さんは大きめに反応してくれるので、それも含めて「あ、衝撃受けてる！」ってわかったりとかして(笑)。劇場版のときも世界各国の人たちに向けて、それぞれの国の挨拶で動画を撮った記憶があります。

——今や世界中で愛される作品になっているということですね。

自分で言うのも照れくさい気持ちはありますけど、そうなっているといいですよね。まあ、でも、海外で展開されるときは翻訳がされて私の声じゃないかもしれないから(笑)。

——それこそ「まどか」の続編ができるころには、海外に行ける状況になっている可能性もありますし。（※インタビューは続編発表前に実施）

もちろん続編があったらとてもうれしいなと思いますけど、急いで作ってほしいものでもないというか。逆に言うと何年も温めてきている大事な作品でもあるわけじゃないですか。なので、作り手たちが作りたいタイミングで呼んでもらえたら、私はいつでもまどかをやるよという気持ちでいます。この10年の間にきっといろんなフィードバックもありつつ、新たに得たものとか、「やっぱりいいな」と思い返したものとか、見ているみなさんにも作っているスタッフさんたちにもあったと思うんですよね。私たちキャストはその設計図通りに粛々と作るというのが仕事なので、どのタイミングで話が来てもいいように準備だけはしておこうと思っています。

——最後に、ファンのみなさまへのコメントをお願い致します。

10年前にスタッフさんたちとキャストたちが協力して水たまりに投げ入れた「まどか」という石が波紋になって、ずっと続いているのは本当にすごいことだなと思っています。でも、それってみんなが忘れずにいてくれたからだし、愛し続けてくれていたからだと思うんですよね。私たちは常にニュートラルな「まどか」、そして鹿目まどかを演じて提示していくんですけれども、みなさんの中で色がついてからが作品の本質だと思うので、これからも10年といわず、20年、30年と「まどか」を大事にしてもらえたらうれしいなって思います。

Profile

**悠木 碧**
ゆうきあおい

近年の出演作に『蜘蛛ですが、なにか？』（「私」役）、『スライム倒して 300 年、知らないうちにレベル MAX になってました』（アズサ役）、『ヒーリングっど♥プリキュア』（キュアグレース / 花寺 のどか役）など。

# 魔法少女まどか☆マギカ10周年記念インタビューvol.6



暁美ほむら役

# 斎藤千和

CHIWA SAITO

## ほむらの不器用なかっこよさはレッドよりもブラックのタイプ

**―2021年で「魔法少女まどか☆マギカ」（以降「まどか」）が10周年を迎えましたが、今の率直なお気持ちをお聞かせください。**

正直な気持ちとしては「え、まだ10年？」という感じです。もっと経っているような感覚というか、もしかしたら私が今まで関わらせていただいた作品の中でいちばん派生したお仕事が多かった作品かなと思うんですね。作品が終わった後もいろんな作品とコラボしたり、ゲームだったり遊技機もあったりして。こういう取材とかもそうですけど、とにかく「まどか」について語ることがすごく多くて、「そうか、まだ10年か」と感じるくらい、一緒にいた時間はもっと長かったような気がします。

**―10年経った今でもオンタイム感が強い、ということでもありますか？**

多分触れなかった年はないと思うんですよ。発表された時期はズレがあるかもしれないけど、毎年何らかの形でほむらを演じさせていただく機会はあったと思います。

**―改めて、10年前当時の作品に対する反響など、思い出されることはありますか？**

私はネットの評判とかには疎いタイプなのですが、それでも会う人ほぼすべてに「『まどか』面白いね。次はどうなるの？」と聞かれたなあ……という記憶があります。ほかのキャストさんはネットとかをよく見て評判を知っていたので、すごいことになっているというのはよく聞いていたんですけど、ネットに疎い私ですら評判が耳に入ってくるのは本当にすごいことだなと思っていましたね。

**―イベントなどの展開も多かったタイトルですが、その中で印象に残っていることはありますか？**

イベントはとにかく多かったですし、その中でも一昨年（２０１９年）『マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』（以降『マギレコ』）でアメリカに呼んでいただいたときは、こんなに時間が経ってからでも作品がめちゃくちゃ愛されているということを感じられて、すごくうれしかったですね。

**―暁美ほむらというキャラクターについては、今の斎藤さんから見て、どんな印象がありますか？**

私自身は順調に年齢を重ねていくので見方が少し変わってきた部分もあるんだろうなとは思いつつ、やっぱり何年経っても魅力的ですよね。大人になっても理解できるし、きっと同じくらいの年齢で見ていたとしたら、もっと強烈な印象が残っていたと思います。

**―ほむらのどういったところを見て、そう思われましたか？**

14～15歳くらいの中学生の時期は大人と子供の境目というか、本人たちにそんな気はないのかもしれないけど、いろんなものを諦めたり、最初からトライしなかったり、大人になる過程でどんどん熱が下がっていく時期じゃないですか。それは生きていく上でとても必要なことではあるんだけど、ほむらにはそういうところがまったくない。私がもしあのくらいの年齢だったら、ずっとそうありたいなと思うくらいまっすぐで、自分が信じたものに対して一生懸命突き進んでいくキャラクターだったので、今でもかっこいいなと思います。ああいう選択は中学生当時の私だったらできない気がするし、今だったらもっとできない気がするなって。どんな結果になるのか、わからないですからね。

**―そう思うと、ほむらのまっすぐさは他の魔法少女と比べても際立っていますよね。**

それをまた表に出さないところがかっこいいんです。不器用なかっこよさがあるというか、ブラックのかっこよさですよね。レッドじゃなくてブラック。

**―戦隊ヒーローにたとえると、ですね。**

ものによってはブルーかもしれないですけど、主役のレッドの脇にいて、そっちのほうが人気出ちゃうタイプの（笑）。戦隊ヒーローを見るくらいの歳のときって、ライバルのほうに憧れるじゃないですか。もちろん主人公もかっこいいけど、クールなライバルかっこいい！　みたいな。ほむらを見ていると、そういう感覚がありました。

## 10年経った今だからこそキャラに感情移入できる

**―『マギレコ』でほむらを演じるときには、どんなことを思われましたか？**

最初に相談させていただいたのは「別の時間軸なのか？　パラレルなのか？」ということでした。あまり明確には言わないほうがいいと思うので詳しくは語らないようにしますが、アニメで描かれているところに至るまでの出来事なのか、それともまた違う世界なのかというので、私の中でちょっと捉え方が違ってくるので。特に第10話の、メガネのほむらですよね。メガネのほむらは私の解釈ではある種の別物として捉えるようにしているので、聴きようによっては全然声の出し方が違うと感じられる人もいるのかなと思います。

**―4月25日のイベントで、ついに続編の制作が発表されました。斎藤さんが見てみたいシーンや、期待する展開などはありますか？**

［新編］の続編となると私は今、悪魔になってしまっているので（笑）。この後どうしたらいいのか、どうしたら救われるのかというのは自分でも想像がつかないですね。ラスボスとして堂々と君臨するのか、それともまたまどかが助けに来てくれるのか……一体どうなるのか、そこはすごく楽しみです。完全なるラスボスとして世界を蹂躙していく話をちょっと見てみたいなという気持ちもありつつ、ほむらの気持ちとしてはまどかに助けてもらいたい気もするし、ひとつに絞れないですね。ラスボスのほうは［新編］のBlu-rayに入っていた1stテイクバージョンのほむらになっちゃうかなと思うんですけど（笑）。

**―少し作品から離れるかもしれませんが、この10年で斎藤さんご自身の中で変化を感じられることは何かありますか？**

ものすごく個人的なことではありますけど、私は本業が「声優」から「ママ」に移りました。もちろん声優の仕事をする上でのモチベーションは変わっていないのですが、仕事をするということに対して、もっと感謝できるようになった気がします。

**―その変化を踏まえて、「まどか」という作品の見え方が変わったことや、感情移入できるようになったキャラクターなどはありますか？**

10年前に演じていたときは本当に自分のことだけで精いっぱいで、そこまで他のキャラクターに感情移入ができなかったんですよね。今のほうがいろんなキャラクターの心情をもう少し客観視できるというか、想像できるようになったかなと思います。たとえば、当時の私はマミさんの気持ちがまったくわからなかったんですよ。ほむらを演じ始めたときはもう既にいい大人だったのに、マミさんより精神年齢が全然低くて。それに、ほむらとマミさんも違うじゃないですか。ほむらは完全にひとりでいるんだけど、寂しいとか感じるよりも先に自分のやりたいことに向かっていく強さがある。マミさんはそれよりも視野が広くて、だからこそひとりになることを寂しいと感じることができる。そういうマミさんの気持ちは、10年経った今のほうが理解できる気がします。さやかはもともと女の子からしたら共感しやすいキャラなので理解できるといったらできるんですけど、お母さん目線になるといちばん心配。でも、いちばん強いかなとも、ちょっと思いますね。

**―まどかのお母さんに対する見方も変わってきたりしましたか？**

あんなかっこいいママには私はなれないけど、わかる気はします。

**―この10年を振り返って、「まどか」という作品は斎藤さんのキャリアや人生の中でどういった位置づけにあると思われますか？**

本業が変わったというお話もしましたが、それでも私がこうやって今も仕事を続けていけている、大きな理由になっている作品のひとつだと思います。私にとっては本当に宝物みたいな作品だし、キャラクターで、自分が少し俯瞰で見ることができるようになって、より作品のことを理解できた気もするんです。もちろん時間が経ったことによって声が当時よりも低くなってしまったりとか、14歳を演じる上で大変な部分も正直あると思うんですけど、それでも今のほうが作品を愛せているんじゃないかって、私個人は思っています。それはきっと、ずっと応援してくださっているみなさんもそうなんじゃないかなって。最初に見たときの熱量とは違うかもしれないけれど、時間が経ってもう1回見直したときにまた違う感情が生まれたり、もっと広くキャラクターそれぞれを見ることができたりして、より深く愛せるんじゃないかなという気持ちで私は今「まどか」を見ていますし、みなさんもそうであったらいいなと思っています。そういうふうにお互いが「あー、10年経ったね。今でも好きだね」と言えるのはすごいことだと思うので、私も作品やキャラクターを愛するひとりとして10年間変わらず「まどか」を愛してくださったみなさんにお会いできる機会がすごく楽しみですし、今までお世話になった分もちゃんとこれからお返ししていけたらなと思っています。暁美ほむらは私が演じられる限り全力で演じ続けていきたいキャラクターだなと今、より深くそう思いました。

### Profile

**斎藤千和**
さいとうちわ

近年の出演作に『ザ・ラウド・ハウス　シーズン1』（リンカーン・ラウド役）、『100万の命の上に俺は立っている』（カハベル役）、『Fate/kaleid liner Prisma☆Illya プリズマ☆ファンタズム』（クロエ・フォン・アインツベルン役）、『ストライクウィッチーズ 劇場版 501部隊発進しますっ!』（フランチェスカ・ルッキーニ役）など。

# 「魔法少女まどか☆マギカ」の歩み

2011年1月から放送された、TVアニメ「魔法少女まどか☆マギカ」は、大きな話題となりアニメ史に残るほどの人気を博した。本作の制作初期から現在までの歩みを振り返っていこう。

## 制作開始からオリジナルアニメプロジェクトとして発表に至るまで

「魔法少女まどか☆マギカ」の制作は2008年からスタートし、会議に主要スタッフである、監督の新房昭之、キャラクター原案の蒼樹うめ、脚本の虚淵玄、シャフト代表取締役の久保田光俊、プロデューサーの岩上敦宏が集まり、「魔法少女もの」のアニメを作るための意見を出し合った。そのアイデアを虚淵玄が1クール分の構成案にまとめあげ、約1年かけて脚本が作られていった。並行して蒼樹うめによるキャラクター原案が進められ、稿数を重ねながらまどかたち魔法少女や、キュゥべえのデザインが決まっていった。その後はアニメ制作が進み、新房監督の発案で、異空間設計を劇団イヌカレーが担当することになり、独特な魔女の世界が作られるようになった。そして2010年10月、TVアニメ『咎狗の血』内のCMで、新房昭之×虚淵玄×蒼樹うめ×シャフトによるオリジナルアニメプロジェクトとして発表。はじめはシリアスな内容は伏せられ、かわいらしいキャラクターによる魔法少女ものとして宣伝されていた。



◆蒼樹うめ 初期キャラクター原案 第1稿



◆蒼樹うめ 初期キャラクター原案第3稿



◆蒼樹うめ 初期キャラクター原案第2稿

初期キャラクター原案は、2008年に出された第1稿から第3稿まで稿数が重ねられていった。







## 大きな話題となったTVシリーズ「魔法少女まどか☆マギカ」



◆キービジュアル第２弾



◆キービジュアル第１弾

2011年1月7日に、MBSにて第1話が放送。TBS、CBC、ニコニコ動画などでも順次放送・配信されていった。その後、独特の世界観が注目を集め、さらに第3話の衝撃的な展開で一気に盛り上がりが加速。魔法少女たちの過酷な運命や、キュゥべえの独特なセリフがファンの間で話題となっていった。しかし、3月11日、東日本大震災が発生し、放送が中断。その後、4月21日にMBSで第11～12話、TBSで第10～12話が連続放送され、TVシリーズは最終回を迎えた。



◆鹿目まどか



◆暁美ほむら



◆巴マミ



◆美樹さやか



◆佐倉杏子



◆キュゥべえ

◆最終回告知用　新聞広告




4月21日付けの読売新聞朝刊に全面広告が掲載された。写真は関西版。

## Blu-ray・DVDなどの大ヒットに加えさまざまな賞を受賞

「魔法少女まどか☆マギカ」の放送後の反響は大きく、Blu-ray・DVD第1巻は売り切れ続出、ClariSが歌うオープニングテーマ「コネクト」、Kalafinaが歌うエンディングテーマ「Magia」もロングヒットを記録した。

さまざまな賞も受賞し、「第16回アニメーション神戸賞」の作品賞・テレビ部門を受賞。2011年の「ニュータイプアニメアワード」においては作品賞、監督賞を始めとする12部門を受賞。さらに「第15回文化庁メディア芸術祭」のアニメーション部門において大賞、「第11回東京アニメアワード」では、テレビ部門優秀作品賞、監督賞、脚本賞を受賞するなど、アニメファンのみならず、一般層からの評価も受ける作品となっていった。

◆「魔法少女まどか☆マギカ」Blu-ray・DVD 第1〜6巻













◆オープニングテーマ「コネクト」（歌：ClariS）アニメ盤



◆エンディングテーマ「Magia」（歌：Kalafina）アニメ盤



オープニングテーマ、エンディングテーマの販売形態は通常盤と初回生産限定盤、アニメ盤の3仕様があり、初回生産限定盤にはPVを収録したDVDが、アニメ盤には表題曲のTV MIXが収録された。



2011年

## TVアニメのコミカライズやスピンオフ漫画、関連書籍が多数発売

芳文社から2011年2月12日に発売された、ハノカゲによるコミカライズ『魔法少女まどか☆マギカ』は人気により書店で山積みになり、タワー状に積まれることもあった。その他にも「まどか☆マギカ」関連の漫画が数多く発表され、3月からは、「まんがタイムきららフォワード」にて、『魔法少女かずみ☆マギカ 〜The innocent malice〜』が連載し、5月12日に第1巻が発売（全5巻）。同日に外伝としてムラ黒江による『魔法少女おりこ☆マギカ』（全2巻）が描き下ろしコミックスとして発売。それぞれTVシリーズとは異なった切り口で、オリジナルの魔法少女たちの活躍を描いていった。

また8月12日には、設定・原案イラストなどを収録した「『魔法少女まどか☆マギカ』 PRODUCTION NOTE」が先行発売。8月14日にニトロプラスより、『小説版 魔法少女まどか☆マギカ 初回限定版』が、8月27日に芳文社より『魔法少女まどか☆マギカ公式ガイドブック you are not alone.』がそれぞれ発売。作品をより楽しめる書籍として人気を博していった。



◆『魔法少女まどか☆マギカ公式ガイドブック you are not alone.』

公式ガイドブックでは、全話プレイバックをはじめ、制作陣の座談会による「まどか」誕生秘話やキャストインタビュー、世界観や美術設定の資料、当時の版権イラストも収録。



◆コミカライズ『魔法少女まどか☆マギカ』第1巻



◆『魔法少女おりこ☆マギカ』第1巻



◆『魔法少女かずみ☆マギカ』第1巻





## ゲーム化や他作品とのコラボも

さまざまなメディアミックスが展開された本作。ゲーム関連では、2012年3月15日にバンダイナムコゲームスより、PSP版「魔法少女まどか☆マギカ ポータブル」が発売。TVアニメに沿った展開のほか、巴マミの過去などのオリジナルエピソードが用意されていた。また設定はあったもののTVアニメでは使用されなかった魔女も登場したことで話題となった。2011年8月にはMobageのソーシャルカード育成ゲーム『魔法少女まどか☆マギカ』が配信。2014年7月にはセガより、アーケードカードゲーム『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ MAGICARD BATTLE』が稼動。その他に、スマートフォン向けゲームとのコラボも多く、これまでに数多くのコラボイベントが開催されている。





◆「魔法少女まどか☆マギカ ポータブル」

# 「魔法少女まどか☆マギカ」専門漫画雑誌「まんがタイムきらら☆マギカ」創刊

2012年6月8日に、「魔法少女まどか☆マギカ」の専門誌「まんがタイムきらら☆マギカ」が「まんがタイムきららキャラット」の増刊として刊行されると、数多くの外伝やスピンオフ作品が連載。『魔法少女たると☆マギカ The Legend of "Jeanne d'Arc"』(枡狐/蛙空)、『巴マミの平凡な日常』(あらたまい)、『魔法少女ほむら☆たむら ~平行世界がいつも平行であるとは限らないのだ。~』(あfろ)などが人気を博していった。vol.20からは劇場版[前後編]と[新編]をつなぐ物語『魔法少女まどか☆マギカ[魔獣編]』(ハノカゲ)も連載され、魔女に代わり魔獣が蔓延する世界でのほむらの活躍が描かれた。




◆「まんがタイムきらら☆マギカ」vol.30(表紙イラスト:蒼樹うめ)




◆「まんがタイムきらら☆マギカ」vol.1(表紙イラスト:シャフト)

◆「まんがタイムきらら☆マギカ」誌面




誌面は漫画連載のほかにも、「魔法少女まどか☆マギカ」の最新情報、スタッフやキャストのインタビュー、グッズ情報、読者ページなど盛りだくさんの内容だった。







◆『魔法少女ほむら☆たむら ~平行世界がいつも平行であるとは限らないのだ。~』第1巻




◆『巴マミの平凡な日常』第1巻




◆『魔法少女まどか☆マギカ[魔獣編]』第1巻







# 『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ[前編]始まりの物語/[後編]永遠の物語』公開

大反響があった「魔法少女まどか☆マギカ」の放送後、虚淵玄が新たに作成したプロットをもとに、次の展開についての会議が行われた。話し合いの結果、TVシリーズの総集編と続編を含めた劇場三部作となることが決まった。総集編は新房昭之が総監督となり、第1話から第8話の『[前編]始まりの物語』と、第9話から第12話の『[後編]永遠の物語』という前後編の二作に分けられた。そして監督の宮本幸裕や劇団イヌカレーなど、現場スタッフたちが「劇場の大スクリーンで映えるように」と、細部を修正。各話の絵柄の統一、TVシリーズから劇場用へのカメラ位置の修正、原画や美術、異空間の調整など、ほぼすべてのカットの再チェックが行われた。また新規のオープニング、魔法少女の変身シーンやアクションシーンの追加といった新要素に加え、キャスト陣による再アフレコも行われ、劇場用へ精度や密度が上げられていった。そして2012年10月6日、『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ[前編]始まりの物語』が、その一週間後、10月13日には『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ[後編]永遠の物語』が公開。多くのファンが劇場に足を運び、『[後編]永遠の物語』は公開初週の興行収入ランキングで1位を獲得。その後も全国各地でロングラン上映された。



◆[前編]始まりの物語　キービジュアル



◆[後編]永遠の物語　キービジュアル



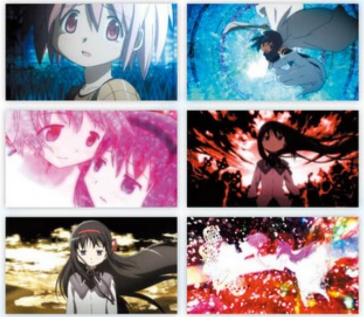
◆蒼樹うめ さやかの髪飾り



◆蒼樹うめ まどか私服設定画



◆週替わり来場者プレゼントキャンペーンポストカード まどかver.



## 2013年

# TVシリーズの続編『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ［新編］叛逆の物語』が公開



◆［新編］叛逆の物語　キービジュアル

虚淵玄が書いた「まどか2」というプロットをもとに、劇場用作品として作られていった『［新編］叛逆の物語』。TVシリーズの続編として、虚淵玄が脚本を書き上げ、細かい調整やアクションシーンの追加など改稿を続けながら、脚本が完成。そこからTVのアニメ第4話などで絵コンテを担当した笹木信作が2200カット数にもおよぶ絵コンテを描き上げ、並行して設定を劇団イヌカレーが用意し、新房総監督、宮本監督のもと、さまざまな現場スタッフたちが総力をあげて劇場版を作り上げていった。そして2013年10月26日、『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ［新編］叛逆の物語』が公開。TVシリーズの続編ということで、楽しみに待っていたファンが数多く劇場を訪れ、11月には、観客動員が100万人を突破するほどの大ヒットに。魔法少女たちのお茶会シーンや、ほむらとマミのガンアクション、新キャラクターの百江なぎさなどが話題となった。さらに、悪魔となったほむらが世界を改変した終盤の展開は大きな反響を呼び、さまざまな感想がファンの間で飛び交うこととなった。



◆ナイトメアの撮影風景

ナイトメアはぬいぐるみを撮影し、コマ撮りされた写真で動きがつけられた。



◆悪魔ほむら



◆百江なぎさ





◆蒼樹うめ衣装原案



◆偽街の子供達





## 2015年

# MADOGATARI展でコンセプトムービーが上映







◆「～シャフト40周年記念～MADOGATARI展」

2015年11月には、東京を皮切りに「～シャフト40周年記念～MADOGATARI展」が開催された。これは数々のアニメーション制作に携わってきたシャフトが設立40周年を迎えるにあたり、応援してきてくれたファンに向けて開催した展覧会。会場では、シャフトの代表作品である「〈物語〉シリーズ」、「魔法少女まどか☆マギカ」を中心に過去作品の原画、設定などの貴重な制作資料が展示された。「魔法少女まどか☆マギカ」の展示では、新作へとつながるコンセプトムービーの上映や、劇団イヌカレープロデュースによる立体造形があり、ファンの話題を集めていた。

◆コンセプトムービー



上映されたコンセプトムービーは、監督の新房昭之が絵コンテを担当。バレリーナのように踊るまどかの姿が描かれていた。

## 2017年

# 新たな魔法少女たちがさまざまな物語をつむぐ外伝

2017年8月22日にアニプレックスから配信が開始された、魔法少女☆RPG『マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』。本作は、キャラクター原案を蒼樹うめ、魔女・ウワサ・手下監修、ドッペル原案・監修を劇団イヌカレー（泥犬）が担当し、オープニングアニメーションと魔法少女の変身アニメーションをシャフトが制作しているアプリゲーム。メインストーリーは主人公の環いろはが、姿を消した妹・ういを追っていくというもの。魔女に似た化け物・ウワサとの戦いや、さまざまな魔法少女たちとの交流、ドッペルという謎の力を巡る物語が繰り広げられ、現在は第二部のメインストーリーが進行中だ。2020年1月から、TVアニメが放送され、総監督・シリーズ構成に劇団イヌカレー（泥犬）、副監督に宮本幸裕、キャラクターデザイン・総作画監督に谷口淳一郎といった、「魔法少女まどか☆マギカ」シリーズのスタッフが制作に関わっている。アニメはゲームのメインストーリーに沿いながらも、オリジナルの展開やオリジナルキャラクターの黒江が登場して話題を集め、全13話が放送。シーズン2の制作も決定している。

◆ゲーム公式サイト



◆TVアニメ
キービジュアル





◆舞台版ビジュアル

けやき坂46がメインキャストを務めた舞台公演もあった。




これは、ある犯罪の記録。

幾重もの結び目がもつれ合った、どうしようもない犯罪の記録。壮大にして、浅はか。悲愴にして、滑稽。異様にして、平凡な犯罪の記録。

この錯乱した犯罪の犯人は、すでにわかっている。

最初にネタバレをしよう。犯人はわたしだ。

わたしこそが、すべての元凶なのだ。

魔法少女にして、同時に非－魔法少女である、わたしが。

**序：西暦二〇二一年**

西暦二〇二一年、世界は未曾有の危機に直面していた。新型コロナウイルスSARS-CoV-2、二〇一九年の終わりごろに現れたそのウイルスは、たちまちのうちに世界を席巻した。パンデミックのなかの、新たな日常、わたしたちはそのなかで生きていかざるをえない。

この巨大な危機のさなか、わたしはまた、小さな小さな個人的な危機に直面していた。

わたしの名は霧羽こさね。二十四歳。大学院生であるが、それは三月までだ。就活には大失敗。ゲームセット。内定率が全体的に悪化しているコロナ禍のさなか、わたしのような人間が職にありつけるわけがなかった。もし、修士に進学することを決断していなかったら、この結果が変わっていたかと思うと、悔やんでも悔やみきれない。

四月からは無職。なにものでもなくなる。映画館で料金割引を受ける権利はなくなり、役所の書類に学生と記入することもできなくなる。モラトリアムは終了し、晴れて虚無へのデビューをかざる。

虚無へのカウントダウンの数字は、毎日減ってくる。今日は昨日となり、明日は今日となる。その法則は絶対であり、だれにもゆるがすことはできない。いわんや、わたしという小市民がどうのこうのすることはできない。

そういうわけで、わたしは、眠い目をこすりながら、ベッドから起き上がらざるをえないのだ。

そして、鏡の前に立つ。

「ん？」

薄汚れた鏡の前で、わたしはまゆをひそめた。なにかが動いたような気がしたのだ。わたしの背後になにかがいる？　そんなばかな。わたしは一人暮らし。ペットもいない。もちろん、ロボットとかを買ったこともない。いまこの部屋にいて、動くことのできるものはわたししかいないはずだ。

……気のせいだ。そう思い、蛇口をひねろうとする。

「……おねえちゃん」

そんな声が聞こえた。どこから？　どこでもない。しいて言うならば、わたしの頭のなかから。

「えるな……？」

思わず、つぶやきが口からもれた。

ふりむく。当然、だれもいない。

笑ってしまう。えるなはとっくのとうに死んでいるのに。

わたしの妹。一度も出会ったことのない双子の妹。

霧羽えるなは、二十四年前に、わたしとともに生まれた。その直後、急死した。両親の話では、わたしも命の危機に瀕していたらしい。新生児集中治療室に数週間お世話になり、やっと持ち直したという。

ものごころついたときから、わたしのそばには、えるながいた。わたしにとって、彼女が最初の友達だった。一卵性双生児なのであたりまえなのだが、わたしにそっくりの顔をして、わたしの心をのぞきこんだかのように相談に乗ってくれた。

イマジナリーフレンド。幼少期にはよくあることだ。双子の妹が死んでしまったことは、わたしの心に多大な影響を与えていたのだ。

このような現象は、自我が発達するにつれてなくなっていくのが普通なのだが、わたしの場合小学校高学年になるまで続いた。心配した両親が小児科にかよわせたりはしたが、十四歳になるころにはやっと、えるなも消えていた。

十四歳？　十年前。十年間か……、長いようで短い日々だ。十年という月日は、希望に燃える中学生が、焼け残りの灰みたいな大学院生（そして無職）になるのにじゅうぶんな期間だ。



十年前、二〇一一年。東日本大震災があった年。えるなの幻影が完全に消えた年。そして……。

そして……？　なに？　なにか、思い出さなくてはいけないことが、あるような気がする。

なんだろう……？　わたしはなにを記憶しているのだろうか？

……まぁ、いいか。いまやらなくてはいけないのは、顔を洗うことだ。

鏡に映る自分の顔を見る。なんともなさけない顔でため息が出てくるほどだ。血走った目、はりのない肌、鼻の下にはうっすらと産毛（うぶげ）が浮かびあがる。まあ、べつにだれに見せるわけでもないのでいいのだが。マスクをつければ隠せる。顔にそれほど気をつかわなくてよくなった。これだけは、ポストコロナのメリットではある。

「ばぁーん！」

人差し指をみけんにあてて、つぶやく。銃で自分の頭を撃ち抜くゴッコ遊び。数年前から、毎朝これをしている。銃弾を想像する。鉛の塊が、わたしの皮膚を切り裂き、頭蓋骨を破壊し、脳髄を吹き飛ばすところを、頭のなかで思い浮かべる。もしも、わたしがアメリカにでも住んでいたら、二十四歳になるとっくの前に死んでいただろう。ゲームオーバー。終了。コンティニューは不可能です。

自殺は怖い。自分が自殺することが死ぬほど怖い。二十代のうちは、死亡リスクにおいて自殺がナンバーワンだ。

ずっと疑問に思うことがある。なぜ、ヒトは自殺をするのか？　進化の観点からいえば、自殺という行動形態に適応度があるとは思えない。自殺など、とっくのとうにヒトの行動から淘汰されてもいいように思えるのだが、なぜ、こんなにも自殺は広まってしまっているのだろうか？

そんな大きな疑問を考えても意味がない。もっと焦点を具体化しなければ。重要なのは、わたしについての問題だ。なぜ、わたしはこんなにもしつこく、自殺について考えているのか？

将来の不安？　それはもちろんだとも。でも、もっと直截なものがあるのだよ。

首のうしろに手をやる。ぶよぶよとした触感が指先をなでる。

このふくらみ。やわらかなコブこそが、悩みの種だ。ものごころついたころから、コブとの生活ははじまっていたのであるが、それは年々大きくなっている。ちょっと前までは、指の先くらいだったのに、いまやゴルフボールくらいになっている。

不安なのだ。このコブがはてしなく大きくなって、わたしが吸収されてしまうことが。わたしの脳が、とるにたらないものになってしまうことが。

このまま、わたしはなにものでもなくなっていく。わたしがしめる体積は小さくなり、コブがしめる体積は大きくなる。そして、消える。わたしは、消えてしまう。あとに残るのは、なにも考えることのない、物言わずにひたすらブヨブヨしているだけの巨大なコブだけ。

このままで、よいのだろうか？　いいや、よいはずがない。

そうとわかっていても、わたしにはなにもできない。

できるとすれば、現実を否定することだけだ。目の前にあることを否定して、逃げて逃げて逃げ続けることだけだ。

未来に背をむけて、過去に浸ることだけ。

さあ、思い返そう。まだ、希望が残っていた、十代のころを。

ああ、夢を見ていたあの日々を。ドキドキ、ワクワクする未来を信じていたあのころを。

わたしは、なれると信じていた。なにに？　物語の主人公に。

そうだ。わたしは主人公になりたかったのだ。生きているのか死んでいるのかわからない毎日を這いずり回っているいまのわたしのような存在ではなく、強烈に生を実感した日々を過ごし、人々を助けて回る主人公に。

たとえば……、そう、魔法少女とか。

魔法少女？　ははは、笑ってしまう。二十四にもなって、魔法少女になりたい？　いまの自分ほど魔法少女と縁遠い存在はいないだろう。さながら、非魔法少女だ。

だけど、そうだ。十四歳のわたしは、魔法少女にあこがれていたことは、たしかだ。

だから、契約したのだ。

契約？　なんのこと？

頭の底の底から、痛みが走る。強烈な痛み。



思い出せ……、思い出せ……。

わたしはなにかを覚えているはずだ。なにか、とんでもないことを。世界全体が宙に浮いて三回転半ほどしてもまだたらないほど、すさまじいことを。

思い出そうとすると、頭の内側から殴られるように痛みが走る。だめだ。爆発する。頭が爆発して粉々になってしまう！

「ファック！」

毒づき、冷蔵庫を開ける。頭痛の特効薬、カフェインがいっぱいのコーヒーを探すのだ。生きるためにはカフェインが欠かせない。わたしはコーヒーを口にすることでかろうじて、意思を持ち、行動が可能となる。

汚れた台所に放っておかれた、長年洗っていない薄汚れたカップにコーヒー粉末をガバガバと入れる。やかんに水をぶちこみ、ガスに引火させる。いつまで経っても沸かない水にいらついて、粉末を先に口のなかに入れる。そこに熱湯を流しこむ。

やけどしてしまった！　ホーリーシット！

それでも、けがの功名。やけどの痛みにより、頭痛のほうが薄らいだ。

記憶が、戻りかけたような気がした。

なるほど、こうやるのか。わかりかけてきたぞ。外部の痛みで内部の痛みを抑えるのか。

そうとわかれば、たたみかけるだけだ。

「ゴー！　ゴーゴーゴー！」

かけ声とともに、鏡に体当たりする。一回、二回、三回、四回。鏡に亀裂が走る。同時に、わたしの世界にも亀裂が走る。世界を覆い隠していた壁の亀裂だ。

世界の欺瞞は、いまや、解かれた。

ああ、そうだ。なんで、忘れていたのだろうか。

十年前、わたしは、あれと出会ったのだ。

……キュゥべえと。

…………………。

ひたすら、真っ黒な空間が続く。

なにか、大事なことをしなければいけないような気がしたのに。

なんだろうか。忘れてしまった。

いまは、ひどくだるい。眠ってしまいそうだ。

ここで眠ってはいけない。絶対に眠ってはいけない場面だ。なんとか、自分をとり戻そうとするが、頭のなかにはもやがかかり、考えることすら難しい。

力を抜き、目を閉じて、眠ってしまいなさい。そんな誘惑にからめとられそうになる。

「……霧羽さん、霧羽こさねさん」

その声に、はっとする。

「霧羽さん、質問に答えてください」

なにをぼうっとしていたのだろうか。いまは、修論発表会だ。指導教官の厳しい声が教室に響いている。

「すいません。どのような質問でしたでしょうか？」

「ちゃんとしてください。『認知革命』とは、どのようなものかという質問です」

そうだ。わたしの修士論文タイトルは「いわゆる『認知革命』についての研究」だ。しっかりしなければ、ここで気を抜いてはいけない。

「およそ七万年前のアフリカで、現生人類、すなわちホモ・サピエンスに起こったと仮定される認知フレームの根本的変化です。この仮説を支持する研究者たちが示す証拠として、七万年前の前後でホモ・サピエンスの文化が大きく変わったことがあります。複雑な部分から構成される武器や、宗教的、神話的な内容を多く含む洞窟壁画などです。この仮説は、ユヴァル・ノア・ハラリの著書『サピエンス全史』により一躍有名になりました。ハラリは『虚構を作り、信じて共有する能力』が認知革命の根底にあると述べています」

「では、霧羽さんはこの仮説をどのように評価していますか？」

「認知革命の提唱者たちの多くは、脳に関わるある単一の遺伝的突然変異の影響で短期間にわたる唐突な認知の変化が起こったとしています。しかし、この仮定はあまりにも都合がよすぎだと思います。また、空想的な芸術がホモ・サピエンス特有のものだというのは言いすぎでしょう。ホモ・サピエンスが到来する前のヨーロッパで、ネアンデルタール人が描いたと思われる洞窟壁画も発見されています。ハラリ氏の言うように、ホモ・サピエンスが、ネアンデルタール人などの化石人類と比べて虚構を作り出し信じる能力に秀でていたと仮定しても、その進化過程は認知革命が示唆するように突然ではなく、ある程度の期間をおいた適応なのではないでしょうか。おそらく、ホモ・サピエンスとネアンデルタール人の生息環境の違いが駆動した進化です」

「なるほど、興味深いですね。では、どのような環境の違いがあったのでしょうか？」

「ええと……、その……」

わたしは口ごもる。この点が、わたしの論文の弱点だったのだ。そもそも、こんなテーマ、修士論文で選ぶべきものじゃない。世界の名だたる学者があーだこーだ言い合ってもまったく解決する気配すらないのだ。一介の大学院生が、その土俵に上がろうとしたのが間違いなのだ。

「どうしましたか？　質問に答えてください」

指導教官が催促する。それでも、わたしはなにも思いつかない。

わたしの口はぷるぷると震え、ひたすら空気を吸い続けている。

それなのに、胸が苦しくなるばかりだ。

「わかりました。もういいです。次の質問をします」

失望したような口調だ。ああ、もうだめだ。失敗した。これで、終わりだ。

いいや、後悔するのはあとですればいい。いまは、目の前の質問に対処するときだ。

「認知革命と魔法少女との関係を述べてください」

「えっ……？」

思わず、間抜けな声が出てしまう。いま、なんて言った？　絶対にこの場でされないはずの質問が、教官の口から飛び出た。

「聞こえなかったのですか？　認知革命と魔法少女との関係です」

やはり、聞き間違いではなかった。わたしは、いま、認知革命と魔法少女との関係を聞かれているのだ。

なんだ、この質問は？　どうやって答えていいのか見当がつかない。どういう意図を持った質問なのか、さっぱりわからない。

わたしが黙っていると、教官は再度口を開く。

「どうしたの、おねえちゃん。教えてよ、認知革命と魔法少女との関係を」

目の前にいるのは、教官ではなく、自分の姿だった。いいや、自分ではない。わたしは、こんな邪悪な笑みを浮かべない。

彼女は……、彼女は、えるなだ。死んだはずの双子の妹。霧羽えるなだ。

そこで、わたしは目覚めた。

長いあいだ気絶していたようだ。夕焼けの赤い光が、窓から照っている。

奇妙な夢を見てしまった。夢から類推できる、いろいろな潜在意識の可能性が思いつくが、いまは深く追求しないでおこう。

頭が不思議と軽かった。十年間洗われなかったバスタブを、すっかり塩素消毒したような気分だ。久しく感じていなかったたいい気分。

酒を飲んでもこんな爽快感は味わえない。頭のなかを、春の風が通り抜けていくようなすがすがしさ。

スキップしたくなるような足どりで立ち上がる。

べたりと、顔を液体が走る。血だ。生乾きの血。

あらためて自分の体を見渡すと、血まみれだった。そういえば、鏡に頭突きしたまま気絶したんだっけな。他人事のように思い出す。

台所の鏡は蜘蛛の巣のように割れていて、とてもじゃないが鏡本来の役割をはたしてくれそうにない。しかたなく、バスルームへといき、鏡をのぞきこむ。

「おいおいおい、なんやねん、これ……」

冗談めかしてつぶやく。冗談としか思えないものがそこに映っていたからだ。

もちろん、鏡に映っているのはわたしだ。それが問題なのだ。

鏡のなかのわたしは、わたしでありながら、わたしではないのだ。

鏡のむこうにいるわたしの額には、大きなひびが入っていた。文字通りのひびだ。皮膚は切れ、めくれあがり、白い頭蓋骨が見える。さらに頭蓋骨すらも無残に割れており、中身が見える。

いいや、それだけならば、まだよかった。まだ普通のことだ。



大けがを負っているっていうことだけ。深刻な状況かもしれないけれど、ありえないことじゃあない。

問題は、頭蓋骨の中身だ。

なかには、なにもなかったのだ。

そこにあるはずの、わたしの脳が、どこにもなかった。

「オー(Oh,)、ノー(No)……」

脳がないとわかったあとの一声は、そんなものだった。べつにNoと脳をかけているわけではない。

しばらく、動けなかった。そりゃあ、そうだ。もしも、自分に脳がないとわかったあとで、易々と動くことができる方がいらっしゃったら、よほどたいした精神力をお持ちと見受けられる。

わたしが一ミリたりとも動く気力を持てないまま、時間はひたすら過ぎ去り、あたりは暗くなってしまった。もうすっかり夜だ。

「ああ、わけがわからない……」

実感をこめて、そうつぶやく。

「わけがわからないのは、きみの存在だよ。こさね」

背後から声がした。変声期前の少年のような、性別を感じさせない声。

ふり返ると、そこには、小動物がいた。ネコとウサギをかけ合わせたようと形容するしかない姿だ。ネコのような耳からウサギのような長い耳が飛び出ている。

「キュゥべえ……」

そうだ。思い出した。この小動物の名はキュゥべえだ。

「久しぶりだね。こさね」

十年前、わたしがまだ十四歳の少女だったころ、キュゥべえと出会った。

そして、契約をした。魔法少女となり、魔女と戦う運命を背負うことを誓ったのだ。

いいや、契約をするはずだった。ところが、わたしは魔法少女になれなかった。

「そうだね。きみには魂がなかった。魔法少女になれるはずがないよ。絶対に魔法少女になれない存在。きみは、さながら、非(ナル)ー魔法少女とでも呼称すべきものだね」





ああ、なんで、こんなことを思い出してしまったのだろうか。わたしは、魔法は使えない。物語の主人公になどなれないのだ。こんなこと、忘れたままでいたかった。

「その、非（ナル）魔法少女のもとに、いまさら、なにを求めてやってきたの？」

「魂を持たないきみは、イレギュラーな存在なんだ。もともと、監視対象だった。いま、そのイレギュラーな度合いがさらに高まったのさ。きみには脳がない。かわりに、きみのうしろ首にある腫瘍が思考して、体を動かしている」

「腫瘍って……、まさか、これが、わたしだっていうのか？」

思わず、手をやって、やっかいものと思っていたコブをさすする。

「その腫瘍は、ぼくの体を構成している細胞と同じものだ。なにものかが、きみに植えつけたようだね」

「おいおい、じゃあ、実質的に、わたしはあんたのクローンってわけ？　今日きたのは親戚の挨拶回りってか？」

「いいや、もっと大事なことがある。きみを中心として時空連続体が崩壊しつつあるんだ」

「ちょっと待った。タイム、タイム！」

あんまりにも情報量が多すぎて頭がパンクしそうになる。今日はなんて日なんだ。

「待ってよ。わかった。わたしも協力するよ。けど、世のなかにタダはない。情報交換をしよう。知ってることを全部話してよ」

こうして、知った。キュゥべえの正体は地球外生命体であり、思春期の少女の感情エネルギーを収集するために地球にきていることを。魔法少女の魔力が尽きて、希望が絶望へと相転移するとき、熱力学の法則に従わない莫大なエネルギーが発生することを。そして、魔法少女は魔女に変化し、呪いと憎しみにまみれて世界を破壊することを。おまけとして、キュゥべえの正式名称はインキュベーターであることも。

正直になにからなにまで話してくれたことは、意外ではあるが、インキュベーターには嘘をつくという概念がないらしい。つい、人間のように考えてしまうが、相手は異星生物だ。擬人化は禁物である。

「それで、なんだよ、時空連続体が崩壊するっていうのは？」
長い話のあと、やっと本題に入る。
「きみの周囲で、時間軸が混乱しているんだ」
「混乱？　なにも感じていないけれど」
「それはまだ規模がナノ秒単位だからだよ。この事象は指数関数的に進行している。数日経てば、きみもわかるよ」
「そうなら、わたしの部屋で過ごしていってよ。歓迎するよ」
　こうして、キュゥべえとの新生活がはじまった。新生活といっても、たいしたことは変わっていない。すでにわたしは、世界と切り離されていた。なにものでもないわたしは、虚無を過ごすだけ。ただただ、コンビニ弁当を食べて寝るだけだ。
　変わったことといえば、話し相手ができたことだろう。キュゥべえと話すことはかなりの精神的安定をもたらした。実際、彼は話し上手だ（擬人化した表現ではあるが）。感情を持たないにもかかわらず、いやむしろ、感情を持っていないからこそ、いろいろ話すことができた。相手の内面など考えず、話したいときに話したいことを話して、黙りたいときには黙る。キュゥべえはその都度、適切な返事と沈黙を返してくれた。
　わたしのような話し下手にとって、このような会話はありがたかった。
　心のない存在が、このような上手い会話ができるのを見て、ELIZA（イライザ）の話を思い出す。一九六六年に作られたチャットAIだ。AIといっても、本当にオモチャのようなプログラミングで、利用者が入力した文章を多少アレンジしてオウム返しするのが関の山だ。ただ、イライザと話した利用者たちは、それが本当に自分を理解してくれていると錯覚した。
　いまのAIは、イライザのときよりもはるかに進歩している。たとえば、ディープラーニングを使ったGPT-3は、文脈に沿った文章を出力することができる。その能力は、ブログランキングで一位を勝ちとったほどだ。出力された文章は多くの人々を感動させている。しかし、そこに内面はない。面白い会話をして相手の感情をかきたてたり、理解されていると思わせたりするのに、心や感情は必要ないのだ。
　そんな心のない存在との平穏な日々の前に、しかし、時空連続体の崩壊が姿を現した。
　まず起こったのは、時計のくるいだ。最初は腕時計の時刻表示がでたらめになっただけであったが、その現象は次々と波及して、わたしが持っている時計のうちで同じ時刻を指すものはなくなった。機械時計が信頼ならなくとも、昔の人は天という巨大な時計を使っていたという時代錯誤なお説教ももう役に立たない。外を見ても、いまが朝なのか昼なのか夜なのかすらわからなくなったのだ。なんとなく明るくて昼だと思える一方で、どことなく暗くて夜っぽい気もする。
　いまはたしていつなのだろうか？　時空連続体が崩壊しなくとも、一人暮らしの経験がある方ならば、そんな疑問を感じることも多いだろう。生活リズムが乱れると、起きたときに暗くてもそれが深夜なのか明け方なのかわからなくなる。それでも、時間秩序を守る最終防衛時計がある。記憶だ。記憶にある時系列を顧みれば、いま現在の正確な時刻がわからなくとも、なにが過去なのかははっきりする。
　わたしは、それすらもわからなくなってきた。しいていえば、夢の秩序に支配されたようだ。夢には整然とした時間軸が存在しない。ただ、類推の論理によって、個々の場面がゆるいつながりを持つだけだ。
「これはまずいよ、こさね」
　キュゥべえの声が頭から響く。彼はわたしの空洞の頭蓋骨が気に入ったようで、いつもそこに入って寝ていた。
「なにがまずいんだよ。このままでいいじゃん」
　ペットフードを投げる。キュゥべえは器用に頭蓋骨の穴から顔を出し、口で受けとった。わたしも同じくペットフードをほおばる。
　時空連続体の崩壊は居心地よい。いまがいつなのか、ここがどこなのか、わたしとはだれなのか。そんな確固たるフレームはぐずぐずと腐り、崩壊していく。外界は溶け続け、ずっとぬるま湯が広がるだけの世界。
「そうか。じゃあ、これまでだね」
　キュゥべえはわたしの頭の穴から体を出し、のびをして、去っていこうとする。

「おいおいおい、こんなところで一人で過ごせって？」
「ぼくの任務はこの現象の調査さ。きみという存在も興味深いけれど、優先順位は相対的に低い」
「わたしはあんたのクローンだろ。兄弟、姉妹？　みたいなもんじゃないか。姉妹の契りはどうなったんだよー。おねぇちゃん」
「ぼくは姉妹の契りなんてした覚えはないし、一般的な意味から、きみの姉でもない」
「そりゃそうだよ！　ジョークだよジョーク。はあ……、わかったわかった。けど、なにするっていうの？」
　わたしは単なる無職だ。時空連続体崩壊に対処する専門訓練など、受けた覚えはない。
「きみの頭の奥に、手紙があったよ。とりあえず、これを読んだらどうかな？」
「手紙？」
　頭のなかに手紙を置いておくなんて、非常識なやつもいるものだ。頭蓋骨を割らないと受けとれないじゃないか。
　キュゥべえが動くのを感じる。後頭部のほうをひっかいており、少しくすぐったい。
「ほら、これだよ」
　傷口から白いものが出てくる。わたしはそれをつかみ、しげしげと見た。どこからどう見ても手紙だ。郵便局員のみなさまが朝早くから配達し、ヤギさんがわれ先にと咀嚼しようとする白い紙だ。ちゃんと封筒に入っていて、印がされている。
　わたしの脳を盗んだやつからの置き手紙だろうか？
　妙ちくりんなことを考えながら、封筒を読む。

　おねぇちゃんへ

　　　あなたの妹、えるなより

　ぞくり、と寒気がした。どうしようもなく、怖い。
　えるなは二十四年前に死んだはずだ。その残響音であるイマジナリーフレンドも十年前に消滅した。なぜ、いまさら、わたしの目の前に現れる？



　震える手で、封筒を開き、なかにある手紙をとり出す。奇妙な点線が入った便せんに、かざり文字で、こう書かれていた。

　おねえちゃん、お久しぶり。そちらの時間で、二十四年ぶりだね。
　**運命の爆心地**で待っているよ。
　追伸：この手紙を点線で折ると、時間鉄道の切符になるから、使ってね。

　なるほど、そういうことか。
　と納得できるわけがない。わけがわからない。頭から出てきた手紙に意味を期待するほうが間違いかもしれないが、一から十までわけがわからないと、本当にわけがわからないと思う以外にない。
「なんだ、この奇想天外意味不明支離滅裂荒唐無稽な手紙は……」
　正直に感想を口にする。
「この手紙は、四次元構造体の三次元切片にあたるようだね。点線に沿って折ってみてくれないかな」
「えっ、まじか。折り紙は得意じゃないんですけど……」
　自慢ではないが、わたしは折り鶴すら満足に作れない。折り紙を持たせても、出てくるのは紙くずの山だけだ。そんなわたしにとって、手紙の指示はかなり難易度の高いものだった。それでも、キュゥべえに背中を押されて、どうにか完成させる。
　完成品は、正三角形を四つ組み合わせた立体。つまり、正四面体であった。
「これが切符になるって、どういう鉄道会社なんだ……、ん？」
　正四面体をよくよく見ると、ほのかに光が漏れていた。青い光だ。材料は紙のみであるため、そんな光源はどこにもないはずなのに。
　みるみるうちに、光は強くなっていく。強烈な青い光が周囲を照らす。青、青、青。青一色がその場をひたすら支配する。
　光が正四面体をつらぬき、内部に影ができる。はたして、これを影と呼称していいのかどうか、あやぶまれる。普通の影のように平面に投影されてはおらず、立体として浮かび上がったからだ。

影は正四面体のなかに、さらに小さな正四面体を形作った。よくよく見ると、そのさらに内部にも小さな小さな正四面体が見える。
　万華鏡のように、幾重(いくえ)もの正四面体の階層が現れる。正四面体のなかには、正四面体が無限に続き、その外を、正四面体が無限に覆い囲んでいる。
　わたしもまた、万華鏡のなかにいるのを悟った。
　落下感覚。それを覚える。いままで自分を支えていた足場が突然消える、あのなんともいえない不安でいっぱいになる。
　どこに落下するっていうの？　正四面体のなかへ。無限の階層をいつまでも落ち続けている。
　無限に深い点から、正四面体が発生し、無限に遠くへと去っていく。
　わたしの体の各点から、正四面体が成長してくる。無限に小さかったはずのそれは無限に大きくなり、わたしを点にする。
　青い光に覆われた正四面体の迷宮の、はるか遠くから、小さな音が聞こえてくる。かすかだが、甲高い音。

　音は徐々に大きくなりはじめる。音とともに、視界のはてに、小さな黒い点が現れた。
　音と点は、じわりじわりと拡大し、わたしの前に姿を現す。
　ああ、これがなにか、わたしは知っている。
　汽車だ。モクモクと煙を吐き、汽笛を鳴らして進む真っ黒な蒸気機関車だ。
　耳をろうせんばかりの音を響かせ、汽車は到着した。
　わたしは、自分が駅のプラットホームにいることに突然気づいた。レンガ造りのおしゃれな駅だが、あまり手入れがゆきとどいていないようで、ところどころ、建物に穴があいてしまっている。
　汽車はわたしの目の前に停車して、堂々たるその巨体を見せつけていた。
　車体には、

　　時間循環鉄道　特急ふ〇七

と大げさにまでデカデカと書かれている。



「さあ、こさね。この列車に乗ろう」
　キュゥべえがうながしてくる。列車のほうも、同調するように扉を開いた。
　ええい、ままよ。こうなったら、腹をくくるしかあるまい。
　わたしは、慎重な足どりで車内に入る。
　現代社会ではめったにお目にかかれないようなほの暗さだ。照明はガスランプらしい。明度のたりないオレンジ色の弱々しい光は、かえって車内に影を投げかけるばかりで、明るく照らすというランプ本来の義務を裏切っているようだった。
　その影たまりの一つに、数名の人影があった。
「あのー、こんにちわ」
　とりあえず、あいさつしようと、わたしは人影に近づいた。
　そこで、はたと、立ち止まる。なんとなく、嫌な感じがしたのだ。
　五人の集団であった。顔が影に隠れていたので、よくわからないが、おそらく子どもだろう。かなり背が低い。それほど身長が高くないわたしよりも、さらに顔一つぶんほど小さい。

　五人とも、奇妙な服装を身につけていた。色とりどりのスカートだ。どこかで見たことのあるよう。それでいて、実際にはどこにも存在しないと確信を持って言えるような非現実的な印象を放つ。
「これはおかしい。実に不可解だ」
　キュゥべえが頭のなかでささやいている。首を縦にふらざるをえない意見だ。
　彼女たちが、ふりむいた。
　目！　十の巨大な目が、わたしをつらぬく。
　その目は、顔の四分の一以上を占めていた。吸いこまれそうに、澄んだ目だ。暗闇にひそむネコのように、瞳孔がキラキラと輝いている。
　まんまるい目、ぷにぷにしたやわらかな肌、艶やかな唇……。
　それは、魅力的な顔だった。かわいいとすらいえるかもしれない。赤ん坊の顔を極端に拡大して加工したようだ。愛らしく、庇護欲がかき立てられる。
　それと同時に、恐ろしかった。心底から、まがまがしさを感じ

た。なぜ……？　過剰なのだ。あまりにも魅力的で、あまりにもかわいいため、かえって吐き気が催されるのだ。

彼女たちの手中にあるものを見て、この場の空気にふさわしくない記憶がよみがえった。胸がしめつけられるような、懐かしさがこみ上げてくる。

それは、ステッキだった。先端には、ハートマークがあり、ピカピカとピンク色で光っている。ショッピングモールのオモチャコーナーにいけば、いつでもどこでも買うことができるようなステッキ。

そうか……。わたしは、彼女たちの正体を知った。魔法少女だ。アニメのなかの、魔法少女のキャラクターを、現実世界で無理やりに再現した存在なのだ。

魔法少女が、ステッキをふり下ろす。まっすぐ、わたしの頭にむかって。

ぐぎぃっ！　嫌な音とともに、視界が、暗闇に支配された。

（「破」へつづく）


**草野　原々**（くさの　げんげん）

小説家。2016年『最後にして最初のアイドル』でデビュー。2017年に同作、2019年に『暗黒声優』で星雲賞日本短編部門を受賞。最近の作品に『大絶滅恐竜タイムウォーズ』。

**春花　あや**（はるはな　あや）

漫画家・イラストレーター。最近の作品に『少女☆歌劇 レヴュースタァライト コミックアンソロジー ナイン・ストーリーズ』。






難条件


引越し!
ですと!?
この借家一帯をアパートにするんですって
大家さんも新しい物件を紹介してくれたけれど…
ここより安い所は無いって
市内で一番安い家に住んでた
国内で
!?
魔法少女可の物件は少ないのよ
失踪が多いから

大黒柱


すでに建設予定地で暮らしているのはうちだけよ
このままじゃ一家揃って宿無しになっちまう
住所が無かったら働くことだってできねえんだぞ!
イラッ
マミが

決意


このままじゃ一家離散の危機ね
碇さん?
誰?
バラバラで暮らすということよ
そんな…あたしは回復魔法があるからいいけど
そこまでバラバラでたまるか
わたし…
魔法少女になるよ

願い


全てのアパートを生まれる前に消し去りたい
全ての宇宙過去と未来の全てのアパートをこの手で
ダメよまどかあなたを魔法少女にはさせない
ガッ
ギュル
ギュル
切り札ならあるのよ
キュイーーン

発掘


次のニュースです
市内のアパート建設予定地から
土偶が発見されました
命名!
見滝原縦ロール土偶
縄文時代にパーマが存在したことを裏付ける資料となる可能性が…
バシ
あれはあたしのしゅくだ
グッ
見滝原縦ロール土偶
よ

またね!


土地を調査するためアパートの建設は一時中断されました
調査中
これでまたみんな一緒に暮らせるね!
翌日
家庭菜園を広げるからキュゥべえの小屋どかすぞー
ジャラ

◆Fin◆


パァーンッ
みんな!
いくわよ!
援護は任せて!
ほむらちゃん!
首尾は上々っと!
ええ!
ドドッ
いっけえええぇー!!
ドドドド


魔法少女☆
大運動会
presented by
ときわた


というわけで
これから君たちには『運動会』と称したチームワークテストを受けてもらうよ
断る！
えっ
ど どうしてだい？
あたしたち チームワークいいし
どんっ
今日はマミん家で
美味いケーキを食べる日だからだよ！
すっぱい お茶もね！
あらあら
そっちが本命でしょーが！
どーーん！


優勝したら
二つ目の願い事を
聞いてやってもいい
…とでも言うんなら
話は別だけどさ！
杏子ってば
さすがにそれは
無茶振りがすぎるわぁ
プッ
いいよ
…え？
ほ本当に!?
君たちが
優勝できたら
の話だけどね
この戦い
絶対に
負けられない！
ヒュ
オ
オ
オ
チラッ
…こっ


…とはいえ
このタイミングで
願いごとって
言われてもねぇ…
悩んじゃうね
そうね…
私はもう 皆と共に
戦えているだけで
充分幸せよ
…強いて
いうなら
永遠に少女のまま…
誰一人欠けることなく…
みんなで一緒にいられたら
いいわよね…なんて
私家族もいないし
あっ
あはは～…
そうですよね～
魔法少女やめたい
とは口が裂けても
言えない
安心しな
ぽん
こんなことも
あろうかと
ばし！
あたしが念のために
作っておいて
やったからさ！
ばしっ
ばしっ！
は？
何をて！


どん
こいつを！
上條
はらり
!?
ビクゥ
なななんなの？その呪い人形みたいな物体は!?
はぁ？
どうみても上条恭介だろ？
えっ
あたしがこいつに命吹き込んでもらってやるからさ！
なんか色々勘違いしてない!?
鹿目さんは？願い事はもう決まったの？
私は…マミさんとおなじくらい…
いや


それ以上に
ばっ
大きくなりたい です！
ぐっ！
はっ
鹿目さん!?
ごごめんなさいわたし欲張りすぎですよね…
マミさんよりは小ぶりでいいんです
そういうことではないのよ鹿目さん!!
ポワァ
それじゃそろそろはじめるよ
ピカァ
!?
服が…光って…!?


おお～
体操服になってるぅー！
場所も変わってるぅ
じゃーーーんっ
キュゥべえにこんな能力あったっけ…？
ってほむら!?
いつの間に!?
にあうわまどか
みんなそろったわね
おっおい！あれ！
魔女がいるじゃねーか！
わいの
わいの
彼らは僕が用意したダミーだよ
彼らに勝利することが報酬の条件だから頑張ってね
なるほど了解！

ピリギャ
さあ始まりました！魔法少女大運動会！
○×△≦…
司会
魔法少女チーム紅！
魔女チーム白！紅白に分かれてのこの勝負！
勝利を手にするチームは一体どっちだーー！
開幕ーー！
ピギィーッ
パァーンッ


最初の種目は綱引きだー！
絶対に負けられないわよ！！
オーエス！
ずる ずる ずる ずる
魔女チーム勝ち！
パタンッ
お次は玉入れ！
ドドドド
魔女チームの勝ち！
キャー
次のー
白組WIN 1POINT
紅 白
0 6
…魔女チーム
うがあぁ
ぜんっぜん勝てなーい!!
本物の魔女より強いような…？
ゼー
ゼー


大玉送り
ったく しょーがねーなー
あたしに任せな！
ダダッ
っオラぁ！
ガゴッ
!?
ちょちょちょちょっ杏子ちゃんストップストップ！
ゴロ ゴロゴロ
ん？何さ
さすがに蹴るのはルール違反じゃ！
勝ちゃいーんでしょ？
紅組反則！白組に1ポイント！
んなんだってえ!?
おバカ…
ガーン
あちゃー


続いての種目は短距離走です！
ザッ
へへーん素早いさやかちゃんに勝てるかな？
クラウチング
スタ
カチッ
……
スタ
スタ
スタ
カチッ
はっ
え!?
暁美ほむら一位！
どうかした？美樹さん
ほむらちゃんすごーい！速すぎて全然見えなかったよ！
どう考えてもズルでしょ今の！


個性よ
しれっ
個性で片づけんな！
まぁ個性なら仕方がないね
マジで!? いいの!?
甘くない!?
魔法使うなんて卑怯！
何も聞こえないわ
なんか釈然としないけど…
でも勝ったからよし！
ぐっ
いいんかい！


ペア玉送り競走
ほむらちゃん! がんばろうね!
ええ まどか
ほむらちゃんはさ
もし優勝できたら… どんなお願い事をするの…?
…それは…
ワルプルギスの夜を葬り去りたい
…なんて言っても意味が分からないでしょうね
しゅん
ほむらちゃん…?
はっ
ま まさか…
ほむらちゃんも大きくなりたいんじゃ…!?
ばあんっ!


…? まどか
そんな… キャラが偏りすぎて争いになるよ…
プル プル
ほむらちゃんと大きさで競うのはいやー!
もう二人でぺったんこでいいーっ
!?
まどか 妨害行為は禁止だよ
ふえひ…
まどか
おっおい! やめろ!
ゆらぁ…
フ… フフ…
何の話!?


みんな諦めるしかないじゃない…
あなたも私もおお！
キィ
わあああーっ
マミさん落ち着いてえええ！
なんだよどうしちまったんだよ！
障害物競走の時に…
マミさんだけ(色々詰まって)抜け出せなくなっちゃって…
恐怖のあまり錯乱状態に…
イヤァァァァ
そんな理由で!?
マミさーん！


も…もうだめよ…
完全に負ける流れよ…！
まだ望みはあります！
あれを見て下さい！
バッ
あ…あれは！
最終競技
リレー
10 point
10ポイントォ!?
今の形勢は？
紅 白
2 9
…です！
てことは…
逆転の大チャンス！
パァァァ


よっしゃー！ここでいっちょ挽回(ばんかい)してやりますか！
みんな配置につい
て…
オ
第一走者
第二走者
第三走者
第四走者
ズォォォ
…かっ
勝てる気
アンカー
しなぁい…
ゴゴゴゴ


それでは位置について
よーい
スタート！
ダッ
先手必勝！
グーンッ
ブォォォ
うわぁぁぁぁ
何なのあのスピードは!?
さ…さすがに魔女にバトンパスはできないなずよ！
パシィッ！
何イィーッ!!


ま…マミさん…
ええ！
ぐわぁ
いやあああ
なんでついてくるのよおお
ダ
ダ
ダ
私がなんとかする…わ…
じー
もっ
……
マミさん大丈夫ですか!?
あ…あとはお願いね…
ブォ
ゼェ
ゼェ
っ
こ…このままじゃ…

バッ
こうなったら私が魔法で！
ユラァ
!
くっ…!
バチィ
ほむらちゃん!?
おいおい なんで攻撃してくんだよォ!?
オイ!!
実際の強さはないが戦闘訓練には適していると思うよ
答えになってない！
そ…そっちがその気なら私たちだって！
ザッ

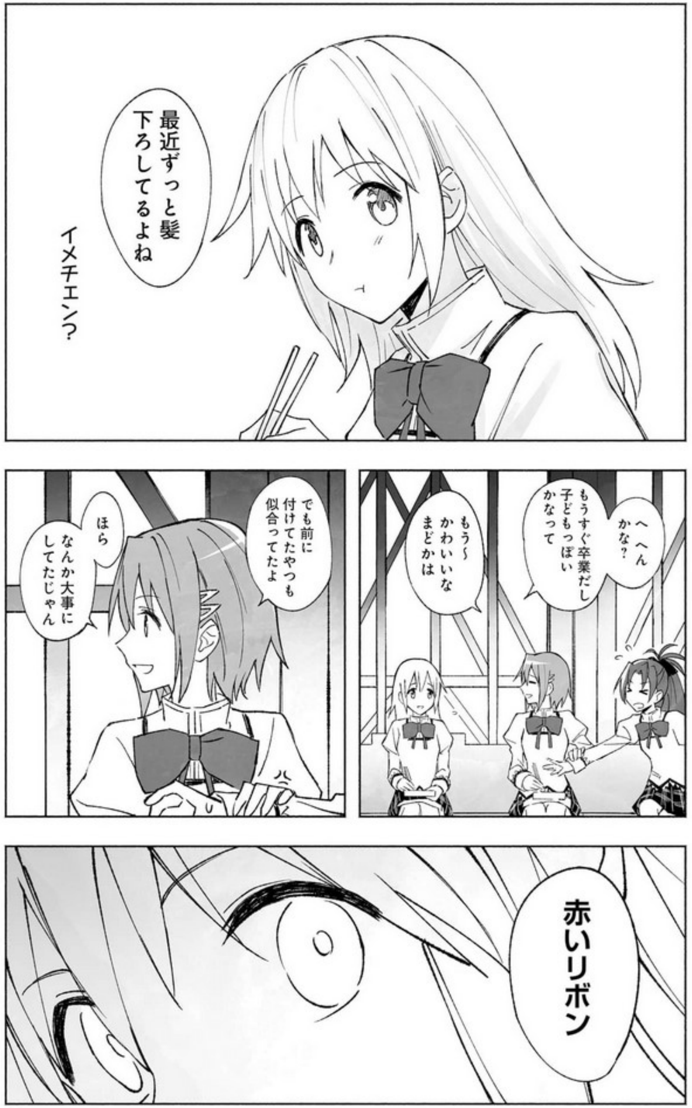

あなたたち……!
いでででで!
格好つけてる暇ない
早く行って!
分かったわ!
ドカーン
ドカーン
あぁーっ!
ドガガガ
あ…あともう少し…!
ドォォォ
GOAL
バサッ
優勝
紅
白

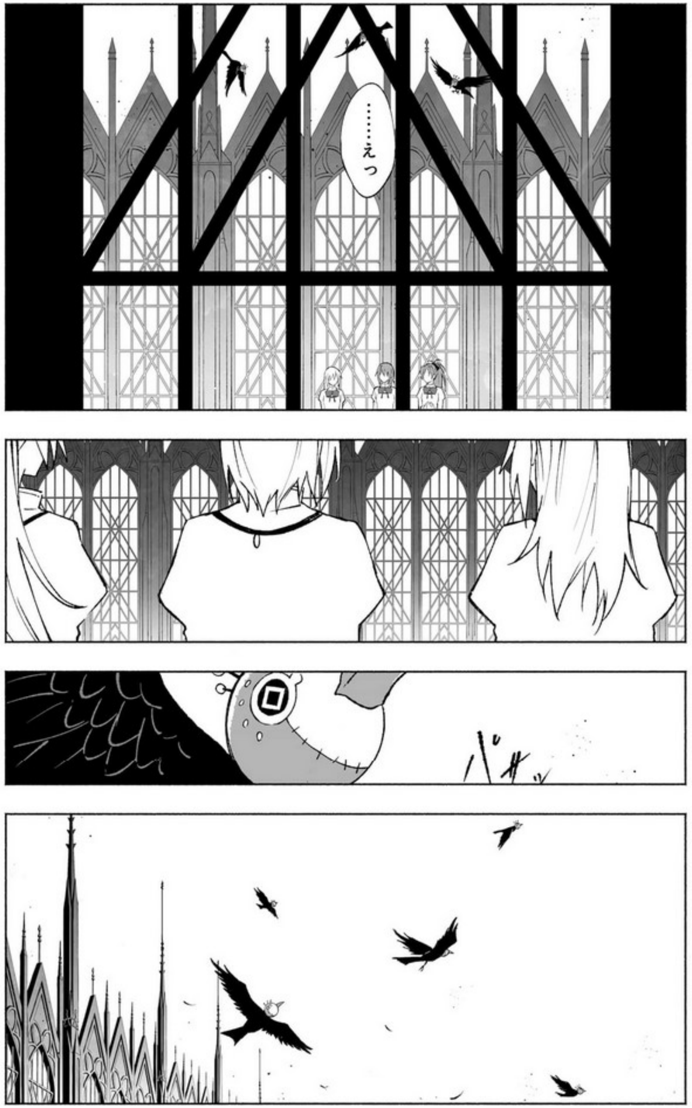

いやぁ~白熱したねぇ
チームワーク抜群だったね!
一時はどうなるかと思ったわ…
ほく
ほく
さキュゥべえ
約束通り願いを叶えてもらうよ!
なんの話だい?
ボクは願いを叶えるなんて一言もいってないよ?
…は?


願いを聞く（耳で）とは
言ったけどね
ドーーン
変身!
コーノーヤーロー!!
待てー!
わけがわからないよ
シュ
タターッ
ピキ
ピキ
◆Fin◆


hich stroll time and sweetness.
not penetrate beyond those t
that silence gathers,
t to answer:
もう少し、このままで
presented by
アズモン
——それじゃあ ここの訳
鹿目さん お願いします
はっ はい
——But let us not penetrate beyond those teeth
甘い時間の中で そぞろ歩いて
どうかまだその歯を越えないで……

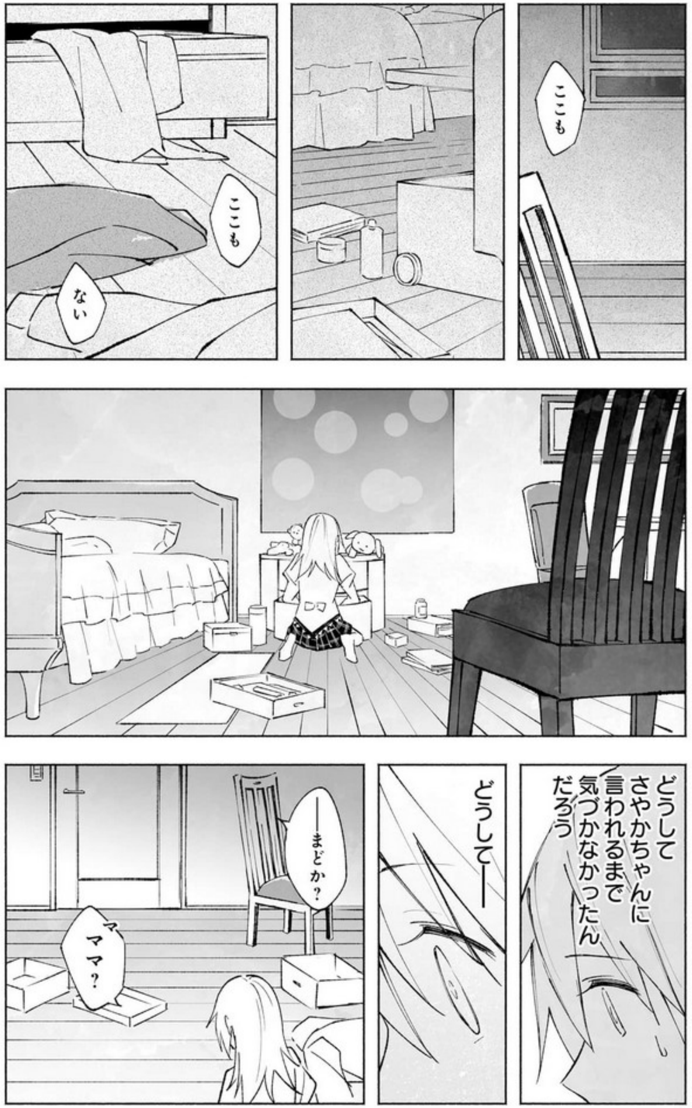

まどか すごいなー
やっぱ アメリカ帰りは 違うわー
もうー さやかちゃん 大げさだよ
発音 とても 素敵でしたよ
あたしもアメリカ 行ったら これくらい できるかなー
さやかには 無理だろう
杏子にだけは 言われたくない ですー
んだと
場所が変わる だけでは 上手くなりませんよ さやかさん
仁美まで～！
あはは…
あら
ではそろそろ 行きますね
ええ
うん
恭介によろしく
そういえば まどかさ


最近ずっと髪 下ろしてるよね
イメチェン？
へへん かな？
もうすぐ卒業だし 子どもっぽい かなって
もう～ かわいいな まどかは
でも前に 付けてたやつも 似合ってたよ
ほら なんか大事に してたじゃん
赤いリボン

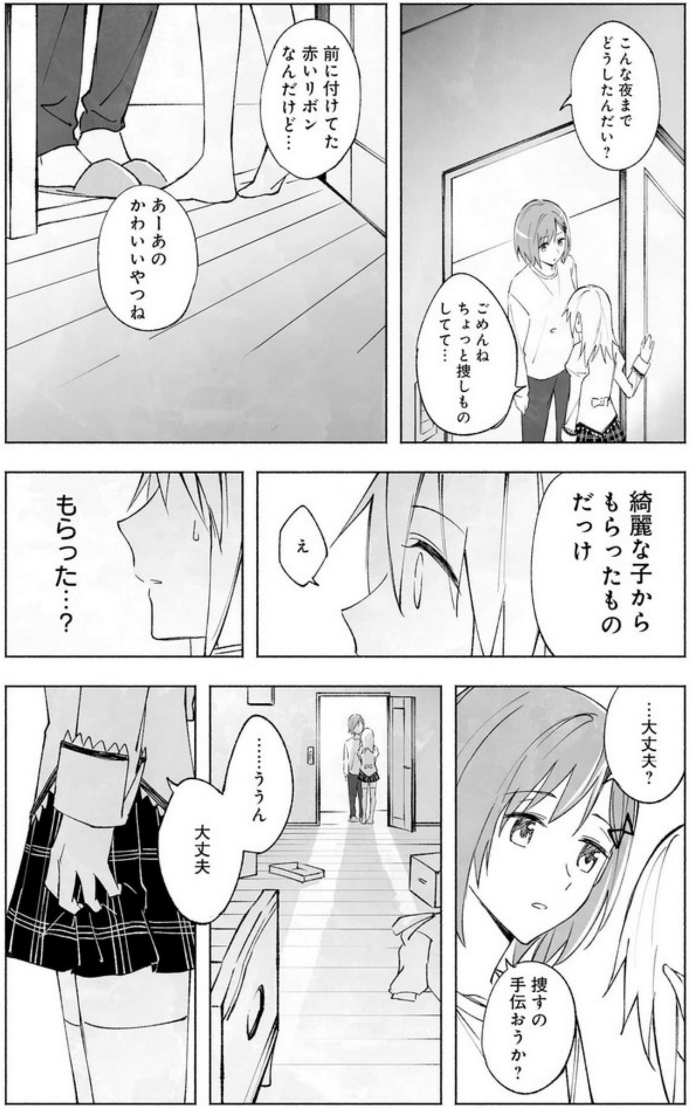

……えっ
バサッ




まどか
本当に大丈夫？
うん
ごめんね
心配かけて
じゃあ
また明日ね
じゃあな
うん
バイバイ
あんなまどか
初めて見たー
リボンのこと
言ったの
まずかったかな…
さやかたまに
空気読まねぇ
しな
そうなの!?
♪
マミさん
から
今日瘴気が
濃いから
見回り行くって
えー
めんどくせぇー
あと今日
ご馳走するって
よし
行くか


ここも
ここも
ない
どうして
さやかちゃんに
言われるまで
気づかなかったん
だろう
どうして――
――まどか？
ママ？




こんな夜まで
どうしたんだい？
ごめんね
ちょっと捜しもの
してて…
前に付けてた
赤いリボン
なんだけど…
あーあの
かわいいやつね
綺麗な子から
もらったもの
だっけ
え
もらった…？
…大丈夫？
捜すの
手伝おうか？
……ううん
大丈夫

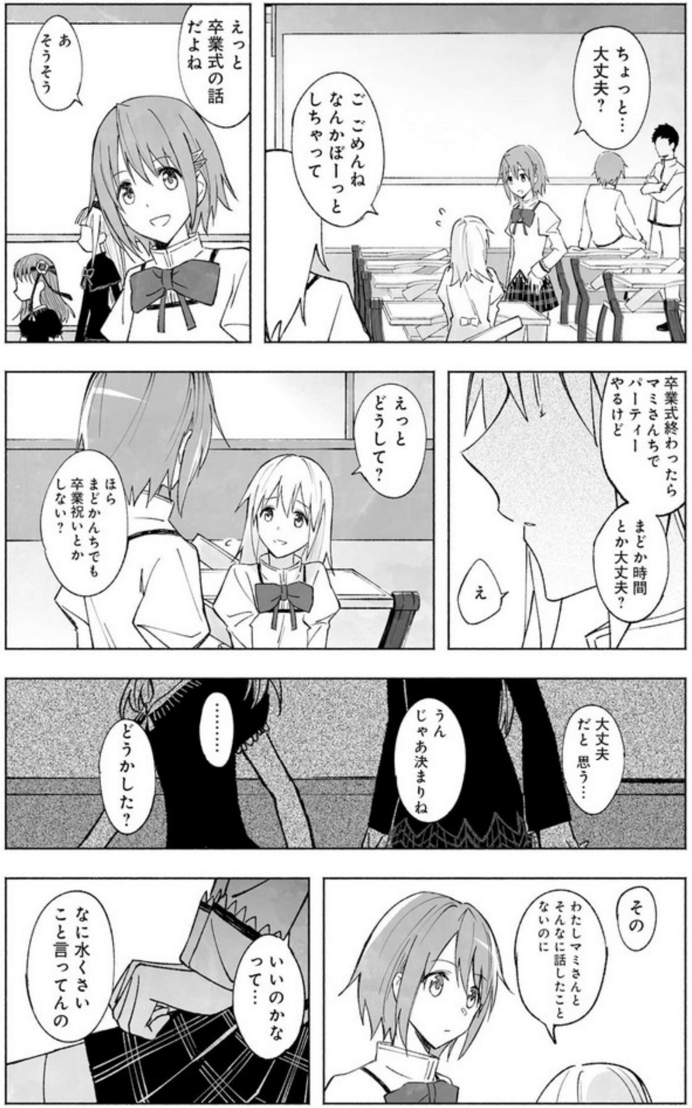

たぶん
自分で見つけないと
だめだと思うから
…そうかい
うん
見つかるさ
まどかなら
…うん
ありがとう
ママ

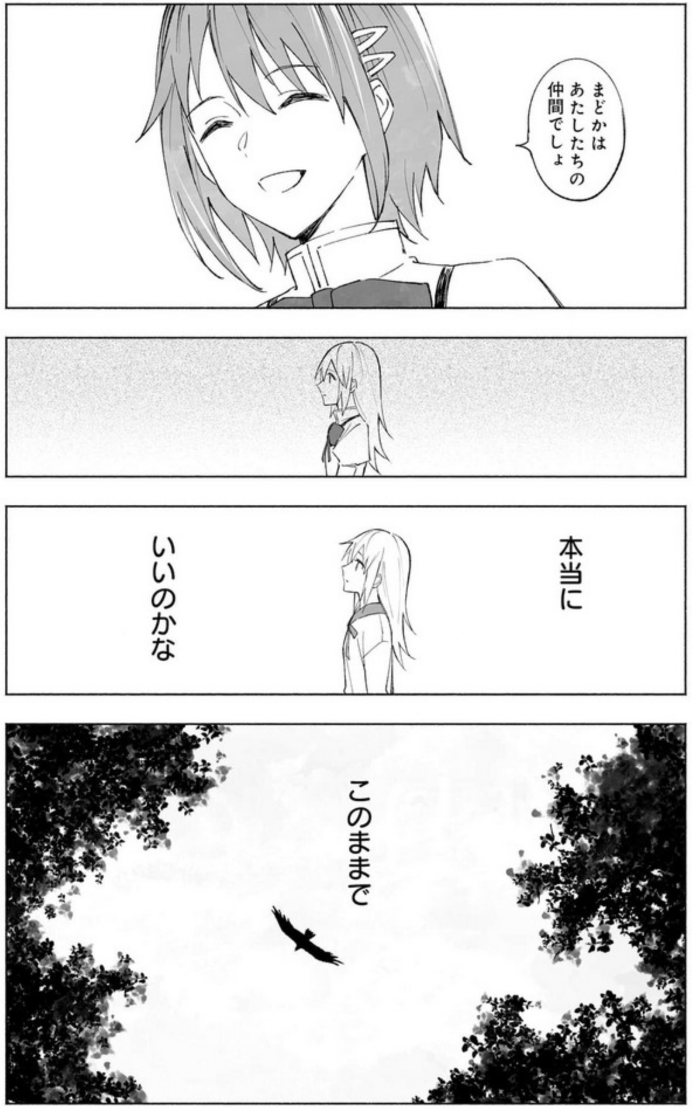



杏子のやつ
ご飯食べたら
張り切ってるなー
オラオラッ
マミのごはん
おいしいから
仕方ないのです
フ…
あら
嬉しいわね
なんで
なぎさちゃんが
得意げなの…
そうだ
マミさん
なあに
卒業式の日
みんなで
マミさんちに
寄ってもいい？
ふふ
もちろん
いいわよ
みんなの
卒業祝いに
パーティーでも
しましょうか


あの日から
ずっと捜してたのに
どこもなくて
どこに
置いたんだろう…
学校って
こんな
だったっけ…
まどか？




ちょっと…
大丈夫？
ご ごめんね
なんかぼーっと
しちゃって
えっと
卒業式の話
だよね
あ
そうそう
卒業式終わったら
マミさんちで
パーティー
やるけど
まどか時間
とか大丈夫？
え
えっと
どうして？
ほら
まどかんちでも
卒業祝いとか
しない？
大丈夫
だと 思う…
うん
じゃあ決まりね
……
どうかした？
その
わたしマミさんと
そんなに話したこと
ないのに
いいのかな
って…
なに水くさい
こと言ってんの


まどかは
あたしたちの
仲間でしょ
本当に
いいのかな
このままで




誰の役にも
立てなくて
なんとなく
生きていくの
杏子ちゃん…？
おう
まどかか


どうしたんだ
顔色悪いぞ
って
おい
あんな
欲しがってた
のにさ…
強情なやつら
えっと
知り合いなの？
ああ
わりい
知り合いっつーか
たまにこいつらに
食い物やってさ
あいつらいつも
欲しがってるのに
あげても取らないん
だよな
結構変わった
やつらだけど
なんか
ほっとけねぇしさ
食うかい？

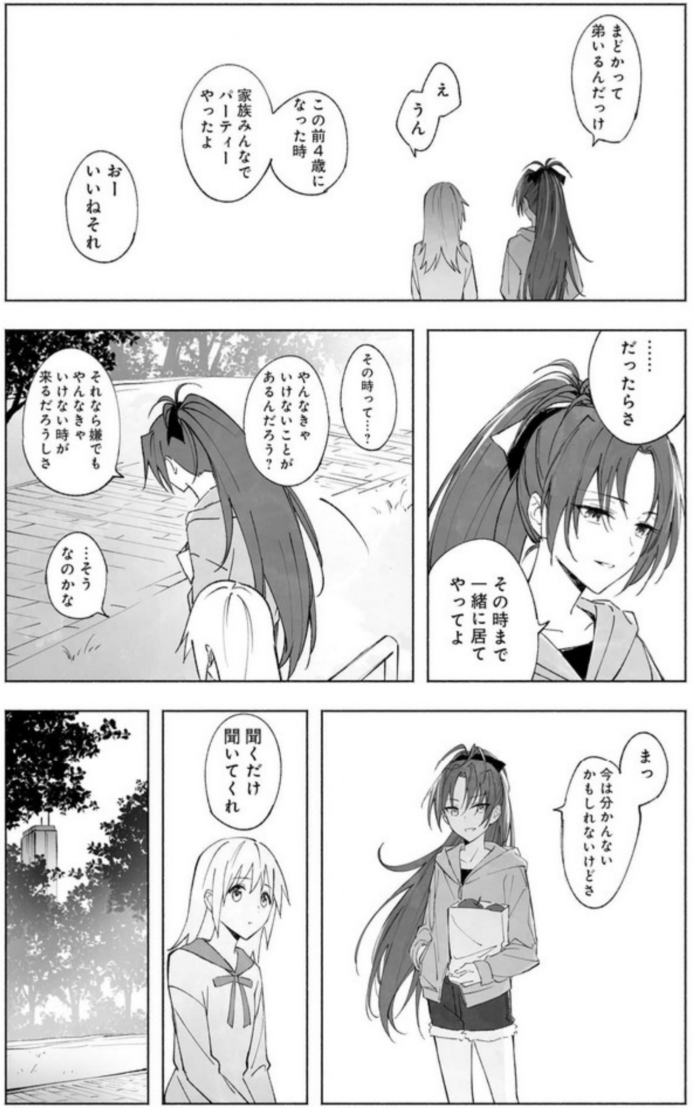



あの…
杏子ちゃん
わたし
このままで
いいのかな
このままって？
仁美ちゃんは稽古で
さやかちゃんと
杏子ちゃんも
やることがあって…
そんな皆を
見てると
わたしもなにか
やるべきこととか
あるんじゃないかって
そうしないと
なんだか
わたしはここに
居ちゃいけない
ような
もとは
違う場所に
居たような
もっとなにか
大事なことを
やらないと
いけない
じゃないかって

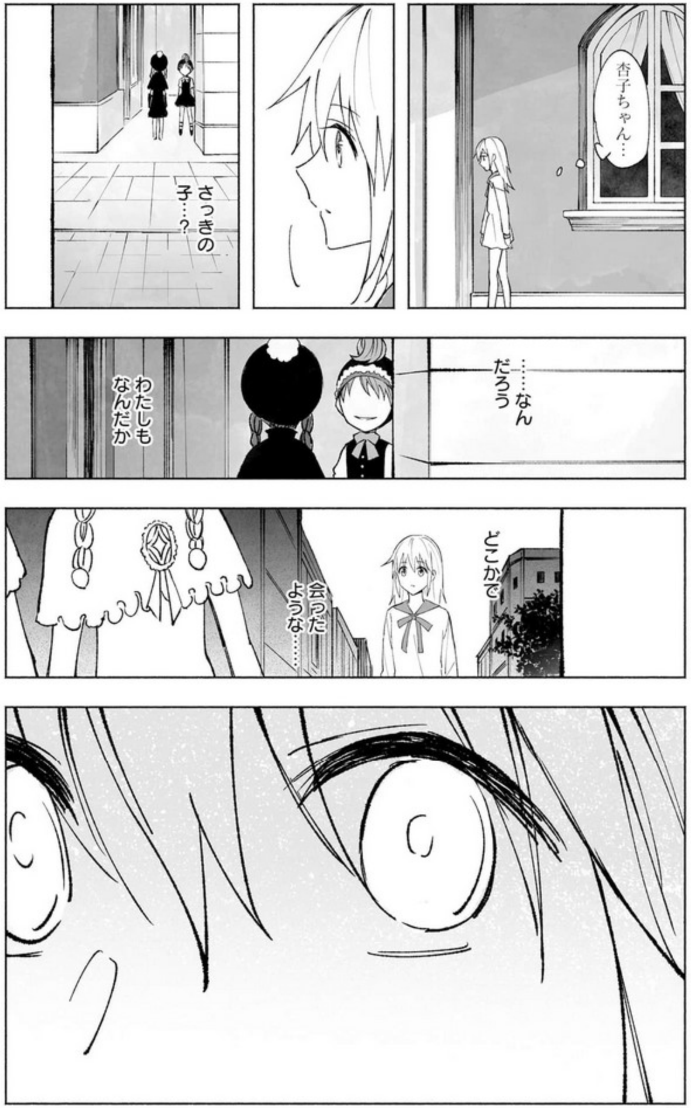


そのことってさ
まどか一人でやんないとだめなことか？
……え
ひとり…なのかな
寂しい気持ちはあったかも
でも
たぶんそのことはわたしにしかできないことで
すごく大事なことだと思う
だから
――なぁ

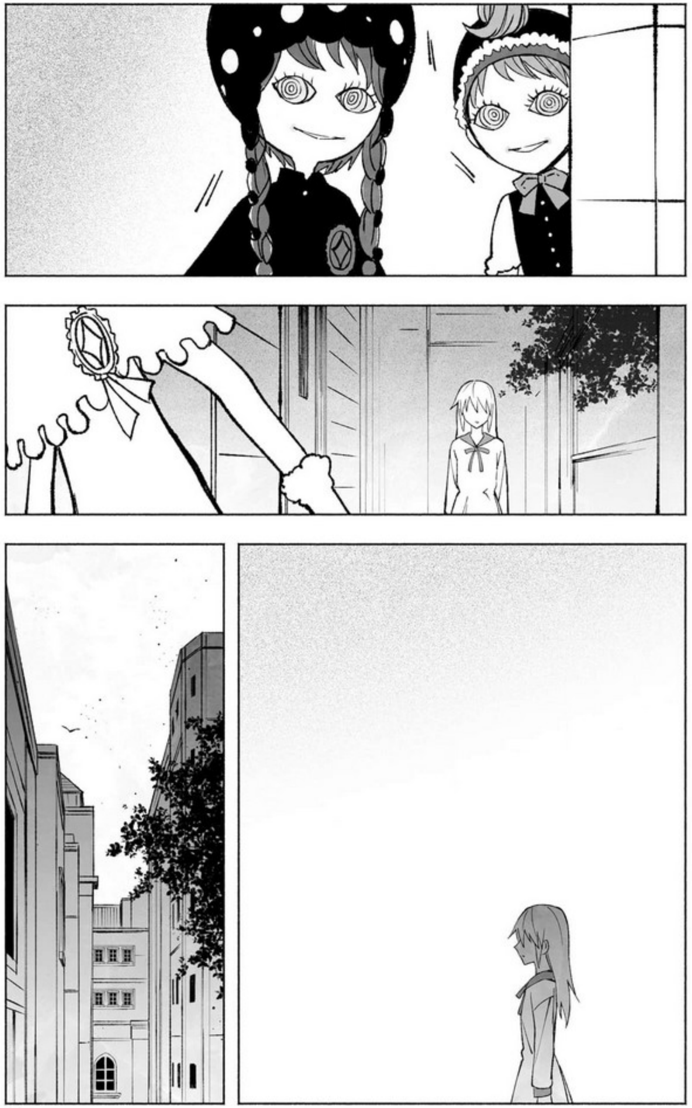


まどかって弟いるんだっけ
え うん
この前４歳になった時
家族みんなでパーティーやったよ
おー いいねそれ
……だったらさ
その時まで一緒に居てやってよ
その時って…？
やんなきゃいけないことがあるんだろう？
それなら嫌でもやんなきゃいけない時が来るだろうしさ
…そう なのかな
まっ 今は分かんないかもしれないけどさ
聞くだけ聞いてくれ


杏子ちゃん…
さっきの子…？
…なんだろう
わたしもなんだか
どこかで
会ったような……






もしかして
ここに……！
あっ…






今日はこれを付けていくんかい？
うん
いい顔してんじゃん
いってきまーす
いってらっしゃーい




おっ
リボン見つかった？
うん
やっぱもう少し付けようかなって
いいじゃんかわいいよ
まぁいいんじゃねーの
ありがとう杏子ちゃんさやかちゃん


もう少し
このままで

◆*Fin*◆


私ね
ほむらちゃんにはとーっても三つ編みが似合うと思うの
ピュエラ・マギ・ヘアスタイル・サミット
presented by abua
ま…まどか…?
そんな…唐突に何を言うのまどか
え〜〜〜どうしてだろ
ほむらちゃんはベスト三つ編みニストだって私の直感がささやくの
三つ編みニストって…
ちょ〜っとまったあああ!!


聞き捨てならないなぁまどかくん！
ど～ん
ベスト三つ編みニストの称号は私のものだあああ！
また何を言い出してるんださやかぁ？
さやかちゃんそこ張り合うところ～？
さやかちゃん三つ編みした事あったっけ？
あるもん！3歳の頃に一度だけ!!!
なんでそれで自信満々なんだコイツは…
だいたい今のあなたはショートじゃない
無理よ
ズズ…
言ったな転校生!!
お前いつからそんな魔法使えるようになったんだよさやかあああああ！


さあ！勝負だよ転校生!!!
ほむらちゃんは負けないよっ！
キョーコ！お願い!!
せっせっせっ
アタシかよ!?
………
ほむらちゃん三つ編みすっごくかわいいよ！
私の好みにド直球
落ち着いてまどかどこからともなく眼鏡を取り出さないで!!
勝利を確信するのはこのさやかちゃんを見てからだよまどか！
！


さやかちゃ…
プロペラ!?
舞い上がっちゃってますね！ あたし！
ってコラ キョーコお おおおお!!
だってしょーが ねーじゃん！ 編み慣れて ねーんだから！
だからって こうはならん でしょーがっ
う うるせーっ 編みにくいんだよ さやかの髪!!
スルスルでツヤツヤで いい匂いしやがって えええええええっ!!!
おまっ… 罵倒するなら 最後までしなさいよ!?
ギャイ ギャイ
ギャイ ギャイ
もー なんだかんだ 仲良いんだから
ピクッ
……ん




もさっ
ごめんなさい 少し眠って しまって いたみたい
※巴マミ
………
少し前
こっくり こっくり
あれ マミさん 寝ちゃった みたい
疲れてるんじゃ ない？ 昨日の 戦いで
すごかった もんね マミさん
Z Z Z


スースー
改めて見るとマミさんってほんとキレイだなぁ
きっとねもっと色んな髪型も似合うと思うの
見てみたいなぁって
巴マミはこれまでずっと一人で戦い続けてきた
そんな余裕なんてなかったと思うわ
そ そうだよね今までこの街を守ってくれてたんだもん
よ〜し
マミさんに素敵な髪型をプレゼントしてあげよう!
ええ!? どうやって?
私らには魔法があるじゃん! ちょちょいっとやったげよ?
…うーん こんな感じ?
それはセンスを疑うわ美樹さやか
ね? ね? こんなのってどうかな?
え――? こうした方が面白いじゃん
わいわい
……
……


カシャ
モッサー
それがどうしてこうなったの…
ちょいちょい
ほむらちゃんにはと一っても三つ編みが似合うと思うの
現在
もっ
…あら? 何か違和感が
巴マミ!
今日の所は用事で失礼するわ
まどかもそうよね?
あ! そうだった気がするかな!?
じゃ! これでお開きだな!
そう… 残念だわ
マミさんさよなら!
? 携帯に通知が…


みんな？
私達のグループチャットに貼られてる写真は何かしら？
ゴゴゴ
あああああ SNSの投稿先間違えたあああ
さやかちゃあああん あああああああ!?
チュン
翌朝
チュン
チュン
もっさ
もっさ
もっさ
ビクッ
わけがわからないよ
★祝・まどか10周年！
◆Fin◆


やさしいティータイム
presented by バン
Chez Tajima
……
ジャラ…
ご馳走するわよ
！
ちゃり…

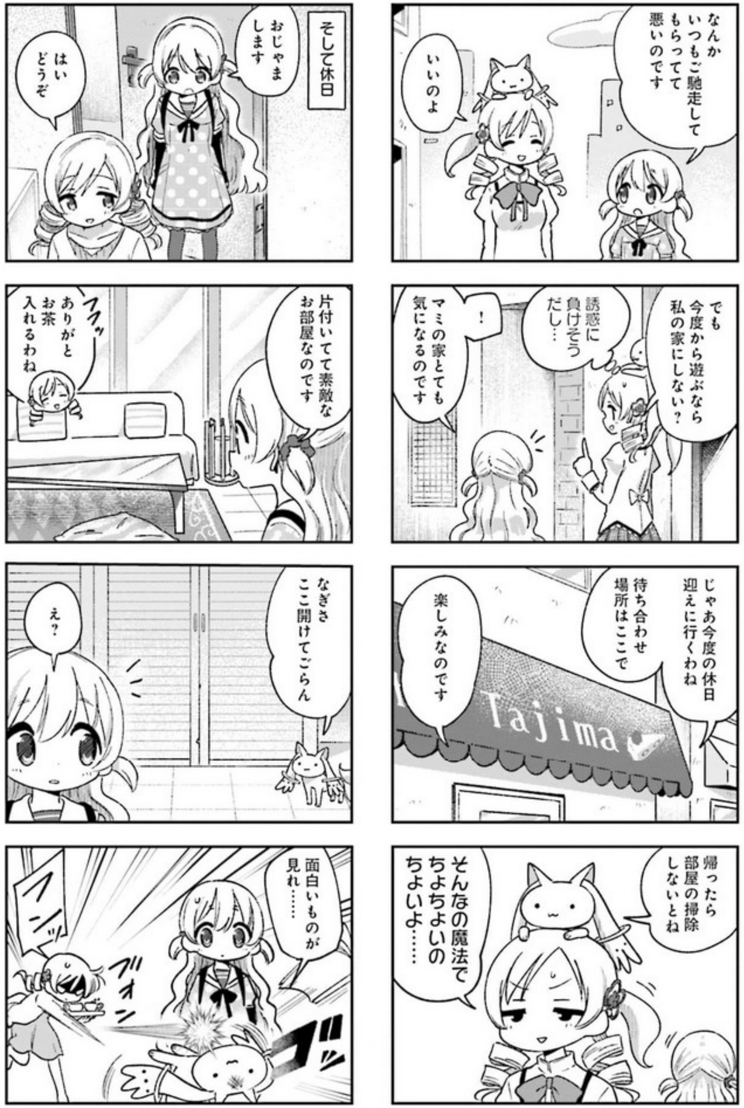

マミ…いいのです 自分の欲しいものは 自分で買うのです
へー しっかり してるのね
このお店のケーキ おいしいのよね
ゴクッ
どうしてここに いるのですか？
ちょっと寄り道よ なぎさはいつもここで ケーキ見てるわよね
何で知ってるんですか もしかして「すとーかー」ってやつですか？
違うわよ
じゃあ 私はチーズケーキ 食べよっと
来るなら 今のうちよ
！
パク
おいしい？
コク
出世払いで 返します
ふふっ 期待してるわね




マミ ごちそうさまでした
どういたしまして
どうして マミは食べなかった のですか？
友達に「太った？」って言われて 少し控えてるのよ
よかったです
え？ なにが？
私以外に お友達がいて
いるわよ！
キュゥべえ マミには本当に お友達はいるの？
なぎさ なんてことを 聞くの
友達の定義が わからないけど
学校でのマミは 笑顔が多いことは 確かだね
そう ですか……
納得して もらえた かしら？
マミの 名誉は守ったよ
だから いるから


別の日
なぎさ
今日もここにいたのね
!
ここにいればまたマミに会えると思ったのです
あらあら
あらあら
ケーキ好きなの選んでいいわよ♪
甘いねマミ
………
じ…
パク
ひとくち食べますか?
いえ……ダイエット中だから我慢するわ
ストレスを蓄積させるのは体によくないのです
蓄積してるのは脂肪だよねマミ
ひょこ
ひどいよマミ
なぎさおかわりもいいのよ




なんかいつもご馳走してもらってて悪いのです
いいのよ
でも今度から遊ぶなら私の家にしない?
誘惑に負けそうだし…
!
マミの家とても気になるのです
じゃあ今度の休日迎えに行くわね待ち合わせ場所はここで
楽しみなのです
Tajima
帰ったら部屋の掃除しないとね
そんなの魔法でちょちょいのちょいよ……
そして休日
おじゃまします
はいどうぞ
片付いてて素敵なお部屋なのです
フフッ
ありがとお茶入れるわね
なぎさここ開けてごらん
え?
面白いものが見れ……
フンッ
ブオン
ゴッ


大事な物が入ってるから開けちゃだめよ～！
ビ──
ひどいよマミ
それよりなにする？
最新のゲームなら一通りあるわよ
興味ないのです
じゃあお絵かき？おままごとでもいいわよ？
微妙なのです
ずーん…
ごめんねつまらないお姉さんで……
どんまいなのです
否定しないのね……
気をつかわなくていいのですよ
私はマミとおしゃべりがしたいのです
え！
キュン…
クローゼットの中身はお菓子ですか？
え？どうしてそう思うのかしら？
たしかマミはダイエットをしてるんですよね
う……
お手伝いしてあげますあとですべて私が回収しておきますね
ズ…
そ そんな殺生な……




この紅茶おいしいのです
おかわりが欲しかったら言ってね
何杯飲んでいいのですか？
え？何杯でもいいわよ
無限に飲んでしまいそうなのです
ふふっおもしろい子ねたくさん飲んでいいわよ
15杯目
おかわりなのです
スッ…
そ そろそろやめた方がいいわよなぎさ…
ストックが……
ところでクラスでいま流行ってるものってあるのかしら
魔法少女のアニメが流行ってるのです
キャピーン
へぇ！
じゃあなぎさの正体がみんなに知れたらきっと人気者ね！
べ 別に興味ないのです！

Presented By はせがゎ（わ）

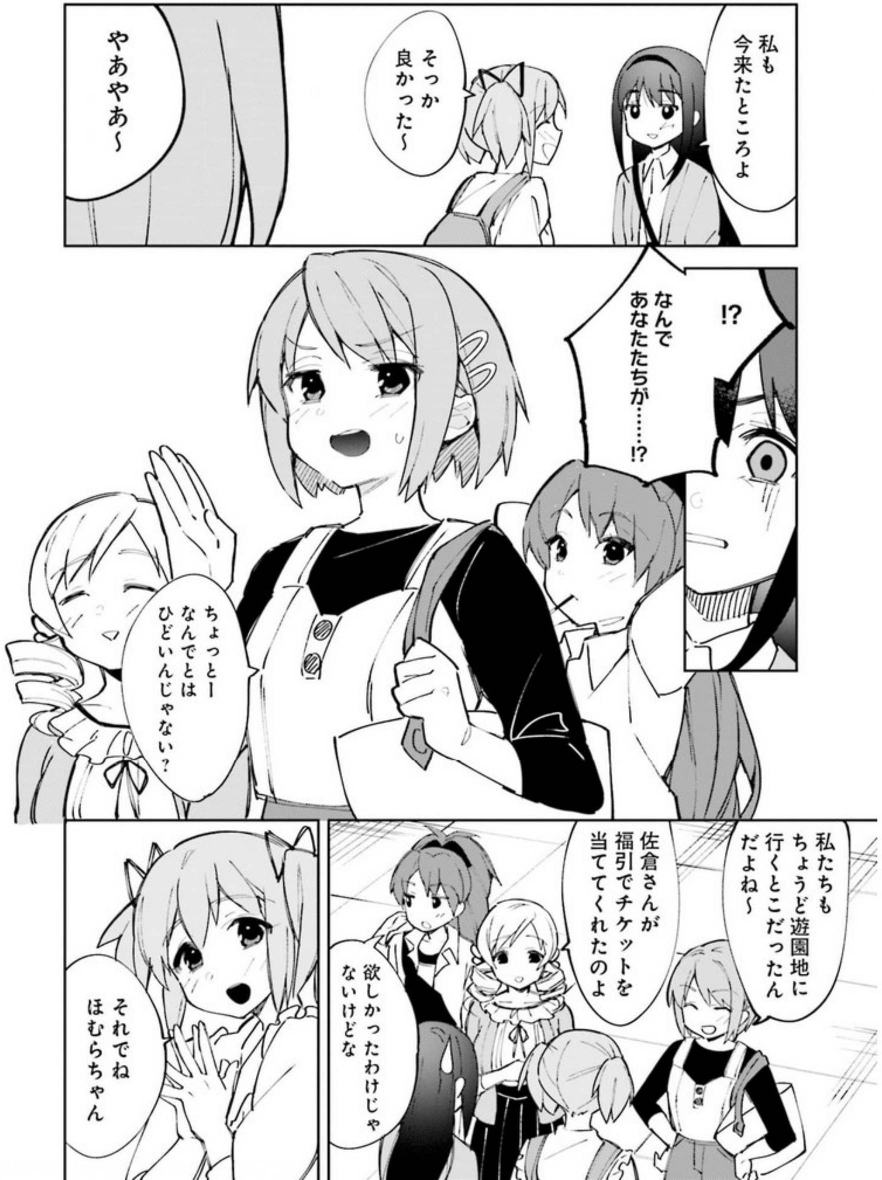






◆Fin◆


今度の日曜日
ぱっ
一緒に遊園地行かない?
えへへ
遊園地?
うん お母さんからチケットもらったんだけど二枚しかなくて
しかも有効期限ぎりぎりなの
じっ
……
だから良かったらほむらちゃんどうかなって
あ~ でも急すぎるよね
用事があるなら
いいえ
行くわ 必ず
二人で遊園地
この日の為に園内マップは完璧に頭に叩きいれた
乗るアトラクションのシミュレーションも完璧よ
ふっ…
あとはまどかの到着を待つだけ――
ほむらちゃんお待たせ~
ごめんねーっ
洋服選んでたらギリギリになっちゃった
まどか


私も今来たところよ
そっか良かった～
やあやあ～
!?
なんであなたたちが……!?
ちょっとーなんでとはひどいんじゃない？
私たちもちょうど遊園地に行くとこだったんだよね～
佐倉さんが福引でチケットを当ててくれたのよ
欲しかったわけじゃないけどな
それでね ほむらちゃん


折角だからさやかちゃんたちも一緒にって思うんだけど
……どうかな？
…………!!
まどかと二人で巡る完璧な遊園地計画が……
でもここで嫌だなんて言ったら……
ひどいよほむらちゃん……
そんな冷たい人だと思わなかった
まどかがそうしたいなら私は大丈夫よ
すん
じゃあ決まりだね！
こいつ無理してねえか？


おー！結構色々あるじゃん！
なに乗るー？
……
人数が増えたからって まどかと楽しむ計画が 崩れるわけじゃない
まずは予定通り コーヒーカップに……！
ほむらちゃん 何乗りたい？
！
コーヒーカップ。
最初はやっぱ これでしょー！


ギャアアア 絶恐コースター
お〜ん
……。
ええ… これに乗るの？ 怖いよ〜
大丈夫だって〜 乗っちゃえば 一瞬だから！
まあ まどかと一緒に 乗れるなら……
まどか 大丈夫よ 私が——


は？
ごめん
ほむらちゃん……
やっぱり私どうしても
絶叫系は苦手で……
私と鹿目さんは
コーヒーカップにでも
乗ってるから
皆楽しんできてね
りょうかーい
楽しんでくるわー！


死ぬかと
思った……
ほむらちゃん！
ぱしっ
大丈夫？
顔色悪いよ
まどか……！
次こそは
私の計画通りに！
ぐっ



次はメリーゴーラウンドに…
お化け屋敷入ってみない？
……次は空中ブランコ
なあなあ あっちにミラーハウスがあったんだけどさー！
次……
……
ずーーん






私たち ジェットコースター 二回目挑んでくるわ～
うん！ いってらっしゃーい
私たちは 何してましょうか
結構色々 乗ったわよね
……
しゅん…
私カフェで休憩したいから 暁美さんたち二人で 遊んで来たら？
……！
ぱあっ

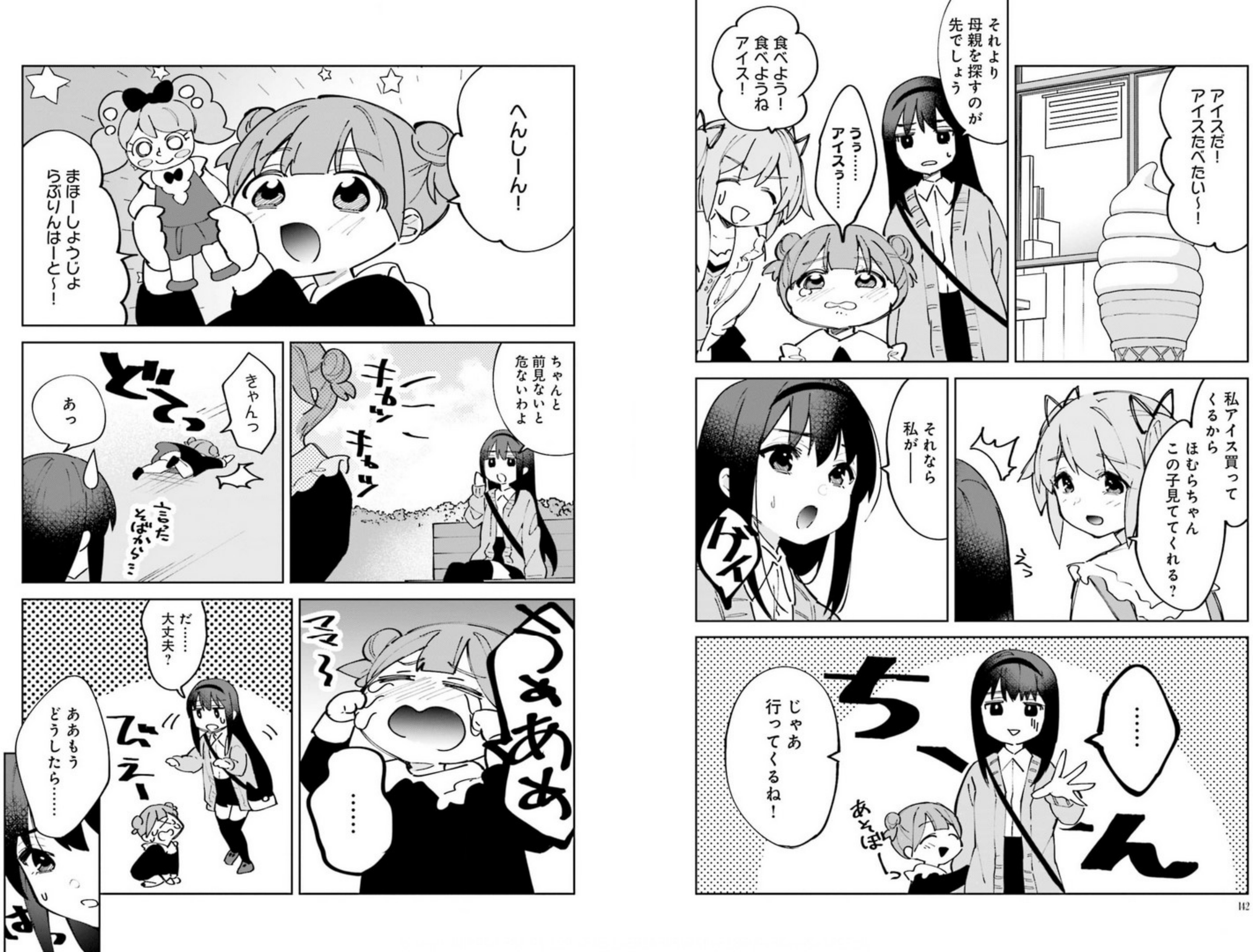

何乗ろうかな～
色々あるから迷っちゃうねー
そうね
やっと予定通りまどかと二人に……
今まで耐え忍んできた甲斐があったわね
?
ほむらちゃんは何か乗りたい物ある？
……！


この時を待ってたわ！
そうね観覧車なんて
グイグイ
……え？
ちょこん
……ママ
ま……?!
あれれ迷子かな？


お母さんはどうしたのかな？
すっ
……ママ
いない……
ママどこ……
うるっ
びええええ
ママァ
あわわ……泣かないで～
大丈夫だよ！お姉ちゃんたちと一緒にお母さん探そうね！
どうしてこうなるのかしら……
お名前は？
……ゆう




……ねえまどかやっぱり迷子センターに相談した方が良いんじゃないかしら
う～ん でも……
とりあえず私たちで探してみようよ
……そうね
ギューッ
ほむらちゃんにすっごく懐いてるみたいだし……
あっ！
ぱっ


アイスだ！
アイスたべたい～！
それより母親を探すのが先でしょう
うぅ……アイスぅ……
食べよう！食べようねアイス！
私アイス買ってくるから
ほむらちゃんこの子見ててくれる？
えっ
それなら私が――
……
じゃあ行ってくるね！
ちーん
あそぼーっ
へんしーん！
まほーしょうじょらぶりんはーと～！
ちゃんと前見ないと危ないわよ
キャッキャッ
きゃんっ
どてっ
あっ
言ったそばから……
うぁああ
ママ～
……
だ……大丈夫？
びえー
ああもうどうしたら……


……あれ
おねえちゃんは？
……そこのあなた
な
泣き止みなさい
おねえちゃんだれ？
うっ……


と……
通りすがりの魔法少女よ
まほーしょうじょ！
すごーい!!
良かった
信じてもらえた！
そこまで考えてなかった――!!
ねえねえ
じゃあまほーで
ママみつけてくれる？
……!!
えっと
それは……
……ゆうちゃん？


ゆうちゃん！どこ行ってたの！
ママ！
あのね おねえちゃんが まほうでかなえて くれたんだよ！
お姉ちゃん？魔法？
うん！
ね！おねえちゃー
……あれ？
いなくなっちゃったぁ
……ふう




なんとか助かったわね……
ほーむーらーちゃん！
見てたよ！よく思いついたね
まどか！
大した事じゃないわ
あの子が運良く魔法少女モノ好きだっただけよ
魔法少女のぬいぐるみ持ってたもんね
でもなかなか思いつかないよ～
ほむらちゃんのお陰で
あの子にとって特別な思い出になったと思うよ
さすがだねほむらちゃん
まどか……


おーい
まどかたちー
どこいってたのさー
さがしたよ、
さやかちゃん
……結局何も
乗れなかったね
ごめんね
ええ
でも——
……十分だわ
暁美さんたち
楽しめたかしら
ずず…
◆Fin◆


presented by ユウズィ
魔法少女の
恋愛相談!
遅れてゴメ…
いけない
友達の恋愛相談に
乗ってたら
遅くなっちゃった
あっ
さやかちゃん
おーっす
遅かったじゃーん!
さやかちゃん?


なにしてるの？
剣占いだよ
剣占い？
花占いのようなものだね
好き嫌いを唱えて剣を投げて
意中の人がどう思ってるのかを占うんだ
へーっ
結果は出そう？
カッ！
わかんない！
剣無限に出るし
まどか 今日は遅かったね？
あっ実は――
好きな人が…
クラスのみんなにはナイショだよ！
好きな人!?
だれー!?
えーと
…私が
おいおーい！
マジでーー!?




あたしにも相談しなさいよー
いや～
ぐいぐい
相手は誰よ～？
あたしの知ってる人ー？
もしかして恭介とか？
ヒュー！
ははっ
そんなわけないかー!!
まだ未練あるのかな…
まどかの母として心配だわ～
ハハ…
……
これ以上嘘をつくのは…
あ あのね
さや…
まかせて！メンバー全員に連絡したから！
ひゅー！
これで恋愛成就間違いなし！
いやー…
ええ～…


ごめーん
おまたせ
マミさん
あらやだ
早とちり!
勘弁してくださいよー
それじゃつまり…
やばー
めんごー
話は全部聞いてるわ
その殿方にどう思われてるのか知りたいと…
まぁ…(友達が)
これ以上嘘は…
あの…
友達がいな…少ない方だから
ゴソゴソ
こういう相談は初めてだけど——
式場のパンフレットもらってきたわ
マミさん——!!
マミさ…
大船に乗ったつもりでいてね!
サルでもできる催眠術
100万部突破
藁で出来た船レベルで不安
ばん


正攻法はダメかー
正攻法とは
おいマミ!
お腹減ったし帰ろうぜー
はいはい
うーーん
となると…
杏子も少しは考えなさいよねー?
あ?
そうだ
占いなんてどう?
占い?
相手の気持ちを知りたいー?
つかれた
そうだなー
私が考案した「銃占い」っていう…
パクリだ
パク…え!?
手紙とか?
まともだ



受け身じゃダメ！逆に攻めていきましょ
例えば？
色気っ
バァァァン!!
まどかに色気かー
ズーン
うーーん
そんなことより美樹さん？
そんなこと
ガーン
？
暁美さんから連絡は来た？
一度だけ
それからは全然…
どんな？
これです
うわぁ
こじらせてる
10:00
まどか最近好きな人ができたみたいでさ！みんなに相談に乗ってほしいんだけど！
まどかの横に男の存在は必要ないので少しおくれます
こわっ




これはなんとかしないと…
鹿目さん！
はいっ
その手袋 少し借りてもいいかしら？
えっ いいですけど
？
トゥートゥー
！
ぼっ!!
ビクッ
威厳のかけらもないな…
ほむらちゃん
うわー
まどか
ヒッ
ガシッ
私の許可なく彼氏を作るなんて許さな
べしっ
落ち着け


あら…
ここは一体
？
ヒッ
ぁ
まどかっ
あなたの好きな人って黒髪!?
くわっ
えっ
髪はロングのストレート!?
えっ
キャラで言ったらクール系!?
えっ
色で例えたら黒色!?
えっ
得意な武器は銃火器!?
うん？
時間とか止めたりできる人!?
それ
ほむらちゃんに誘導尋問してない？
わーん!
結局 本当のことを全て話した
ごめんね!
あれは友達のことだったの!
あらー
そうだったの？
だろうと思った!
ふふ…
なるほど
キリッ
私は信じていたわ
どの口が
手袋洗って返してね

◆Fin◆


僕と契約して
ケモ耳っ子魔法少女になってよ!
キュゥべえ何を言ってるんだろ…
presented by
春日沙生
えっと
みみっ子ってどういうこと？
…猫とか？
猫…？
？
どうやったら魔法少女が強くなるか考えて
耳による同期システムを構築したんだ
キュウべえの言ってる事がよくわからないよ…
実物を見るのが一番早いかな


魔女やっつけた
やっつけた～
楽勝だったねー
だからって気を緩めてはダメよ
油断禁物！
みみっこ…！
マミさん厳しー！
やっつけちゃえば問題ないじゃん
まだキュゥべえに口説かれてるの～？
ひどい言い方だなぁ
魔法少女が増えるのは君達の為でもあるんだよ？
えっ
まどかは
こー見えて難しいよ～？
みんな！




みみ可愛いねっ
邪魔ではないしいいかなって
でしょー
鹿目さんに言ってもらえるなんて嬉しいわ
ねーっ
次に魔女が出そうなところは～
あとはー


おはよー
おはよ〜
朝ごはんいっぱい食べちゃった
あはっ
何食べたの〜？
…魔法少女の姿以外でも耳生えてるんだ
周りの子は反応ないから
見えないのかな…
ご都合設定だよ
!?
耳が見えたら君達が困るでしょ？
そうだけど…
まどかは実際にみみっ子魔法少女見てどうだった？
可愛かったよね？
可愛かった…




女の子は可愛いものが大好きだよね
そうすると心が高揚するよね
そのエネルギーも魔法の力に変換できるんだ
エネルギーを生みそのエネルギーを他の魔法少女と共有する
利点しかないよね
暁美ほむらは嫌がってたけど
けど？
ひょこっ
なんの話？
猫耳の話…
ぱっ
あー全っ然わからないよね！
もう少しわかりやすく説明してほしいよなー
さやかちゃん…
……


耳以外も猫っぽくなったりするのかな⁉
耳以外？
えっと
魚を食べるとか
お風呂に入りたくないとか
そういうの…
あっはっはー
そんなの全然ないよ～
あったら困るし
だよね…
まどか興味持った？
えっ
見た目以外は特に何も変わらないよ～
そうなんだ…
ガラッ


スン…
⁉
カタン…
昨日やってた配信見た？
ごめん寝ちゃって～
えーっ
あ…
あの帽子は……
あっ
さやかちゃん⁉
ガタッ


ぱっ
その帽子
どうしたの？
!!
あなたには
関係ないでしょ
ぷ…
校則でダメって
書いてないっけ？
帽子
校則では明文化
されていないのは
確認済みよ
…
えーでも
ダメだと思うん
だけどなー？
後で先生に
聞いてみよ〜
…
それ
耳だよね…？


ほむらちゃん
嫌がってるって
聞いたけど…
スッ…
ぎゅ
はっ
……


か…
可愛い…っ!!
ぱぁっ!!
誰よりも
可愛いかもっ
びくっ
だっ
誰より!?
あっ
ほむらちゃん
嫌だったんだよね?
わたしが褒めても
困っちゃうよね…
まどかに
褒められるのは
なんでも
嬉しい…
わたしは
阻止したいだけ
なのに…
こんなの
過去に前例ない
んだけど…
「まどかと
お揃いになるなら
良いんじゃない」
って変なこと
言わないでよ…
誰が?




その耳
わたし
触れるのかなぁ?
ぱ〜〜〜っ
耳…
どうかしら…
みんなの耳を
見てる時から
ずっと触って
みたいなぁって
もふもふ
なんだろう
なぁって
…触ってみる?
えっ!?
いいの!?
こくんっ
ぱっ
わぁっ
もふもふ!
耳もふもふ
してる〜!
本当に
猫の耳だ〜♪


まどかにはずっと笑っていてほしいし
幸せになってほしい
魔法少女は
まどかが関わって良い世界じゃないのは変わらない
耳もあったかいね ぽかぽか～
優しさだけで安請け合いしないで…
今この瞬間がずっと続けばいいのに…
ほむらちゃん？


まどかもついに魔法少女か～
えへ～～っ
鹿目さんらしくてすごく可愛らしいわ～
どうして
ほむら何してんの？
どうしてこんなことに…
へな～っ
何で魔法少女になってほしくない私の気持ち伝わらないの!?
でも猫耳まどか可愛い…っ
もふもふ
何意味分からない事言ってんのさ
ぱたぱた
ほむらちゃんっ


みみっ子になっちゃった
ほむらちゃん わたしの耳触ってもいいよ
あっ
でも嫌かな…
触るっ!
す
良かったー!
……
もふもふしてる?
もふもふ
私はとっても幸せですっ!
もふっ
もふもふお返しできてよかった~


今日のほむらおかしくね?
もふもふしか言ってねー
もふもふっ
もふ
?
おかしいのはいつもの事じゃん?
ぱあっ
気に入ってくれたみたいだね?
すごく気に入った!
キュゥべえありがとうっ
あとね 少し気になったんだけど…
耳のこと
なんだい?
耳だけで
しっぽとかは生えてないんだね
耳も十分に可愛いんだけど
しっぽもあるともっと可愛いのになー


まどかは尻尾が欲しいのかい？
ぱっ
尻尾が欲しかったら いつでも言ってくれたら よかったのに
えー…と…
僕は例えで猫を出したけど 猫になるとは言ってないよ？
猫のしっぽ…じゃないよね…？

◆Fin◆


ザザ…ン
ザザ…ン
そんな…
嘘……だよね？
無人島に
来ちゃった……!?
すぱいらる★サバイバル
presented by まめべり


えっと…なんでこうなったんだっけ？
ん―
うまく思い出せないけど
たしか…
あ もしかしたらさぐるっと回ったら向こうに町あるかも！
それはないわ
チームワークって大切だと思うの
そうだわ！合宿するのはどうかしら？
さんせー！
どうやら完全に無人のようね
ほむらちゃん杏子ちゃん
それでえっと
……？
あれ？
わからない事を考えても仕方ないわ
そう あなた達も来ていたのね……
す…
あっ あの
力を合わせて困難を乗り越える…
これは魔法少女としての成長にもつながるわ！
ぱあっ
頼もしいわ！
無人島は一人でも多い方が心強いから！


魔女の結界……という訳でもなさそうだし
無闇に魔力を使う訳にはいかないわね
おっ！
この石切れそう！
どうしよう帰れるのかな…
う～ん
わからないわ
迷わないようにさ
えい！
わ
さやかちゃん賢い！
はい質問！
水や食べ物はどうする？
……
へへっでしょー？
こっ これは悪いがあげられねーぞ
探しに行くわよ
はぁ…
ぎゃあああああ
さやかちゃーん！迷子になっちゃうよ


こんな事になって
あなた何を企んでるの？
心外だなぁ僕はなにも…
正直に言いなさいさもないと
ほむらちゃーん
こっち来て！
お水見つかったよっ
まどかはあんなに楽しそうじゃないか
……
今行くわ
このまま飲むとお腹壊しそうね
沸騰させよう
火が必要だ！
まかせて！
こう見えても火起こしできるのよ
さすがマミさん！
パチ
パチ
ライターなら持ってるわ
わーほむらちゃんすごい！
あ
えっと




肝心の食べ物がまだね
ヤシの実のカラなら落ちてたけど
お腹空いて魚捕る元気もないや
水だけでも数日生きられるって言うけど…
ぐぅ
うぅ
無理だよね
まあ非常食ならそこにいるけど
!?
あ
きのこ……
おいしそうなきのこ
さやかちゃん死んじゃうよっ
しゃりっ
食うかい？
あんたさ早く言ってよね!!


じゃーん！剣できた
あたしの槍もかっこいいっしょ
まどかの弓もすごいな！
ほむらちゃんの盾も凝ってるよね
えへへ
ボキッ
あっ
マミさんだってその……
えっとその
ビンッ
まどかすごい！
これなら獲物も一発ね
すっげーじゃん
ごちそうだぞー
わたし頑張るね
数時間後…
やったぁ！
すごいわ鹿目さん！
きゃっ
きゃっ
次はもっと高得点狙ってみよーよ
あなた達なにしてるの？

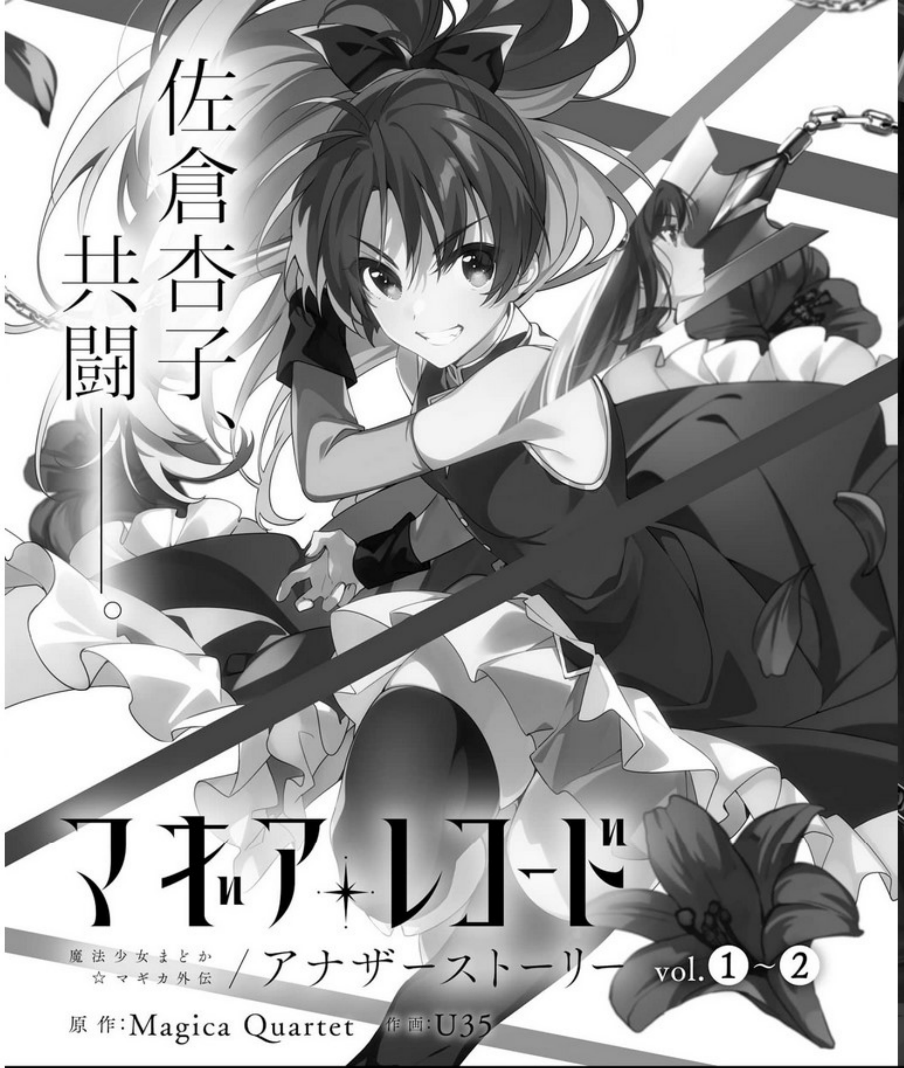



ザザ…
ザザ…
星きれいだね
明日がどうなるかわからないけど……
わたしね
みんなとならなんとかなるって
そんな気がするんだ
……
そうね
起きたら戻ってたりして？
あははそりゃいーな！
おやすみなさい


衝撃は拡散する——。
{ 魔法少女まどか☆マギカ }
10TH ANNIVERSARY BOOK
VOLUME 2
2021.09 ON SALE


あれ？
いつの間にか寝ちゃったみたい
さやかちゃん マミさん
ゆさ
ゆさ
ん？
ごめん寝ちゃってた？
それにしても肩痛いなー
私もよ
寝違えちゃったかしら
えーと…そうそう
合宿の話し合いだったわね

◆Fin◆







［マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝］TVアニメ2ndシーズン

今夏、放送開始。




Contents

001 Introduction
006 スタッフインタビュー【新房昭之】
008 スタッフインタビュー【虚淵玄（ニトロプラス）】
012 スタッフインタビュー【蒼樹うめ】
016 10周年プロジェクト特集
020 Anniversary Stage レポート漫画【カエルDX】
024 スタッフインタビュー【谷口淳一郎】
027 キャストインタビュー【悠木碧】
030 キャストインタビュー【斎藤千和】
032 「魔法少女まどか☆マギカ」の歩み

◆スピンオフ小説
040 『非-魔法少女』草野原々

◆アンソロジー漫画
059 『まどか☆えんがわ2』PAPA
063 『魔法少女☆大運動会』ときわた
087 『もう少し、このままで』アズモン
111 『ピュエラ・マギ・ヘアスタイル・サミット』abua
119 『やさしいティータイム』パン
127 『暁美ほむらの長い休日』はせがわ(わ)
149 『魔法少女の恋愛相談！』ユウズィ
157 『僕と契約してケモ耳っ子魔法少女になってよ！』春日沙生
173 『すばいらる★サバイバル』まめぺり

MANGA TIME KR COMICS

KIRARA MENU 1738

魔法少女まどか☆マギカ 10th Anniversary Book vol.1

電子版発行日　2021年7月15日

◆原作
Magica Quartet

◆発行者
東 敬彰

◆編
まんがタイムきらら

◆発行所
株式会社芳文社
〒112-8580
東京都文京区後楽 1-2-12

◆構成・執筆
高山淳史（ライトワークス）
木澤行人（ライトワークス）
前田 久
仲上佳克
川畑 剛
米林明子

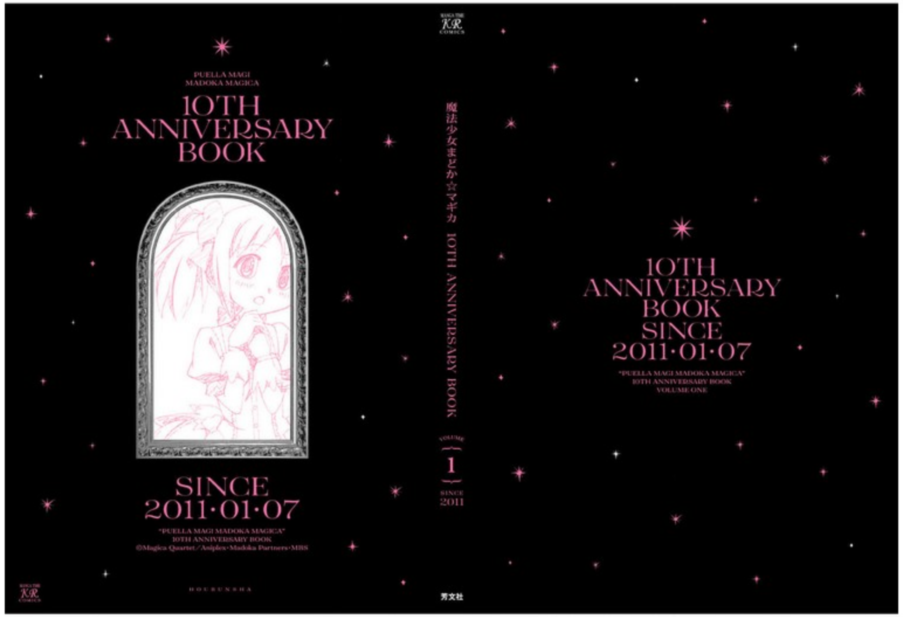
◆表紙デザイン
BALCOLONY.

◆本文デザイン
小林博明（K プラスアートワークス）
小林聡美（K プラスアートワークス）

◆協力
株式会社アイムエンタープライズ
株式会社青二プロダクション
株式会社アーツビジョン
株式会社アニプレックス
株式会社 81 プロデュース
株式会社 f4samurai
株式会社シャフト
株式会社ニトロプラス
株式会社プロ・フィット



※電子書籍版『魔法少女まどか☆マギカ 10th Anniversary Book vol.1』内に掲載されている情報は、全て紙版発行当時のものです。
電子書籍版の本文中のページ番号は、制作の都合上、紙版のページ数をそのまま掲載しております。何卒ご了承ください。


PUELLA MAGI
MADOKA MAGICA
10TH
ANNIVERSARY
BOOK
SINCE
2011·01·07
"PUELLA MAGI MADOKA MAGICA"
10TH ANNIVERSARY BOOK
©Magica Quartet／Aniplex·Madoka Partners·MBS
HOUBUNSHA
MANGA TIME K.R. COMICS
魔法少女まどか☆マギカ 10TH ANNIVERSARY BOOK
VOLUME
1
SINCE
2011
芳文社
10TH
ANNIVERSARY
BOOK
SINCE
2011·01·07
"PUELLA MAGI MADOKA MAGICA"
10TH ANNIVERSARY BOOK
VOLUME ONE